

Oracle9i Lite

メッセージ・リファレンス

リリース 5.0.1

2002 年 4 月

部品番号 : J06009-01

ORACLE®

Oracle9i Lite メッセージ・リファレンス, リリース 5.0.1

部品番号 : J06009-01

原本名 : Oracle9i Lite Message Reference, Release 5.0.1

原本部品番号 : A95916-01

Copyright © 1999, 2002 Oracle Corporation. All rights reserved.

Printed in Japan.

制限付権利の説明

プログラム (ソフトウェアおよびドキュメントを含む) の使用、複製または開示は、オラクル社との契約に記載された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権に関する法律により保護されています。

当プログラムのリバース・エンジニアリング等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。オラクル社は本ドキュメントの無謬性を保証しません。

* オラクル社とは、Oracle Corporation (米国オラクル) または日本オラクル株式会社 (日本オラクル) を指します。

危険な用途への使用について

オラクル社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションを用途として開発されておりません。オラクル社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は、顧客各位の責任と費用により行ってください。万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、日本オラクル株式会社と開発元である Oracle Corporation (米国オラクル) およびその関連会社は一切責任を負いかねます。当プログラムを米国国防総省の米国政府機関に提供する際には、『Restricted Rights』と共に提供してください。この場合次の Notice が適用されます。

Restricted Rights Notice

Programs delivered subject to the DOD FAR Supplement are "commercial computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs, including documentation, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement. Otherwise, Programs delivered subject to the Federal Acquisition Regulations are "restricted computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs shall be subject to the restrictions in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software - Restricted Rights (June, 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

目次

1 メッセージ

1.1	POL 2000 ~ 2099 メモリー・メッセージ.....	1-2
1.2	POL 2100 ~ 2199 ロック / ラッチ / イベント・メッセージ.....	1-3
1.3	POL 2200 ~ 2299 共有メモリー・メッセージ.....	1-4
1.4	POL 2300 ~ 2499 データ型システム・メッセージ.....	1-5
1.5	POL 3000 ~ 3399 オブジェクト・カーネル・メッセージ.....	1-8
1.6	POL 4000 ~ 4999 オブジェクト・カーネル API メッセージ.....	1-16
1.7	POL 5000 ~ 5270 SQL 実行メッセージ.....	1-25
1.8	POL 6000 ~ 6100 ODBC ドライバ・メッセージ.....	1-44
1.9	POL 8000 ~ 8090 Java ストアド・プロシージャ / トリガー・メッセージ.....	1-57
1.10	MS 9000 ~ 9039 Msync のエラー・メッセージ.....	1-66
1.11	MS 9100 ~ 9199 トランスポート・エラー.....	1-70
1.12	MS 9200 ~ 9299 Secure Socket Layer (SSL) のエラー.....	1-71
1.13	WTG 2000 ~ 2100 Oracle Web-to-Go oracle.lite.web.html メッセージ.....	1-73
1.14	WTG 3000 ~ 3099 Oracle Web-to-Go コントロール・センター・メッセージ.....	1-74
1.15	WTG 3100 ~ 3199 oracle.lite.web.resource パッケージからのエラー.....	1-76
1.16	WTG 4000 ~ 4100 Oracle Web-to-Go アプレット / サブレット・メッセージ.....	1-77
1.17	WTG 10000 ~ 10200 Oracle Web-to-Go 一般メッセージ.....	1-77
1.18	WTG 20500 ~ 20600 Oracle Web-to-Go パッケージ・ウィザード・メッセージ.....	1-83
1.19	WTG 21000 ~ 22000 oracle.lite.web.tools 内の Tools クラスにより報告されるエラー.....	1-85
1.20	Oracle Lite メッセージのヘルプ.....	1-87
1.20.1	異常な状態.....	1-87
1.20.1.1	原因.....	1-87
1.20.1.2	アクション.....	1-87
1.20.2	Java アクセス・クラスの例外について.....	1-88
1.20.3	オラクル社カスタマ・サポート・センター.....	1-88

1

メッセージ

説明する内容は、次のとおりです。

- 1.1 項「POL 2000 ～ 2099 メモリー・メッセージ」
- 1.2 項「POL 2100 ～ 2199 ロック / ラッチ / イベント・メッセージ」
- 1.3 項「POL 2200 ～ 2299 共有メモリー・メッセージ」
- 1.4 項「POL 2300 ～ 2499 データ型システム・メッセージ」
- 1.5 項「POL 3000 ～ 3399 オブジェクト・カーネル・メッセージ」
- 1.6 項「POL 4000 ～ 4999 オブジェクト・カーネル API メッセージ」
- 1.7 項「POL 5000 ～ 5270 SQL 実行メッセージ」
- 1.8 項「POL 6000 ～ 6100 ODBC ドライバ・メッセージ」
- 1.9 項「POL 8000 ～ 8090 Java ストアド・プロシージャ / トリガー・メッセージ」
- 1.10 項「MS 9000 ～ 9039 Msync のエラー・メッセージ」
- 1.11 項「MS 9100 ～ 9199 トランSPORT・エラー」
- 1.12 項「MS 9200 ～ 9299 Secure Socket Layer (SSL) のエラー」
- 1.13 項「WTG 2000 ～ 2100 Oracle Web-to-Go oracle.lite.web.html メッセージ」
- 1.14 項「WTG 3000 ～ 3099 Oracle Web-to-Go コントロール・センター・メッセージ」
- 1.15 項「WTG 3100 ～ 3199 oracle.lite.web.resource パッケージからのエラー」
- 1.16 項「WTG 4000 ～ 4100 Oracle Web-to-Go アプレット / サーブレット・メッセージ」
- 1.17 項「WTG 10000 ～ 10200 Oracle Web-to-Go 一般メッセージ」
- 1.18 項「WTG 20500 ～ 20600 Oracle Web-to-Go パッケージ・ウィザード・メッセージ」
- 1.19 項「WTG 21000 ～ 22000 oracle.lite.web.tools 内の Tools クラスにより報告されるエラー」
- 1.20 項「Oracle Lite メッセージのヘルプ」

1.1 POL 2000 ~ 2099 メモリー・メッセージ

POL-2000 これ以上メモリーを割り当てられません

原因: プログラム・ヒープ・メモリーまたは共有メモリー領域が足りません。

処置: アプリケーションを再起動してください。

POL-2001 要求した配列サイズが大きすぎます

原因: 16 ビットの Windows 環境で、プログラムが 64K バイト以上のメモリー・ブロックを割り当てようとした。

処置: より小さなメモリー・ブロックを割り当てるようにしてください。

POL-2002 ポインタがヒープの外を指しています

原因: データベースで無効なポインタが検出されました。

処置: アプリケーションを再起動してください。

POL-2003 メモリー領域の型が間違っています

原因: オブジェクトの解放時に、メモリーが破壊された可能性のあることが検出されました。

処置: このエラーが引き続き発生する場合は、アプリケーションを再起動してください。

POL-2004 メモリー領域はすでに解放されています

原因: プログラムまたはデータベースが、解放済みの配列を解放しようとした。

処置: アクションは必要ありません。

POL-2005 メモリー・ポインタが領域の中央にあります

原因: データベースで無効なポインタが検出されました。

処置: アプリケーションを再起動してください。製品が正しくインストールされていてもエラーが引き続き発生する場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターにご連絡ください。

POL-2006 動的配列が無効です

原因: 動的配列外に書き込みが行われました。

処置: プログラムを調べて、動的配列に割り当てられているバイト数よりも多くのバイト数を書き込んでいないことを確認してください。製品が正しくインストールされていてもエラーが引き続き発生する場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターにご連絡ください。

POL-2007 配列がデータ・バッファより小さいです

原因: プログラムがデータ・バッファを、それよりもサイズの小さい動的配列に保存しようとした。

処置: 動的配列のサイズを大きくしてください。製品が正しくインストールされていてもエラーが引き続き発生する場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターにご連絡ください。

1.2 POL 2100 ~ 2199 ロック / ラッチ / イベント・メッセージ

POL-2100 ラッチの獲得に失敗しました

原因: データベースに低レベルのロックが必要であるのに、利用可能なロックが見つかりませんでした。

処置: 操作をやり直してください。製品が正しくインストールされていてもエラーが引き続き発生する場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターにご連絡ください。

POL-2101 ラッチのリリースに失敗しました

原因: 低レベルのロックが期待どおりにリリースできませんでした。

処置: 製品が正しくインストールされていてもエラーが引き続き発生する場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターにご連絡ください。

POL-2102 ラッチの取得に失敗しました

原因: 低レベルのロック操作に失敗しました。

処置: 製品が正しくインストールされていてもエラーが引き続き発生する場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターにご連絡ください。

POL-2103 ラッチ・ハンドルのクローズに失敗しました

原因: 低レベルのロック操作に失敗しました。

処置: 製品が正しくインストールされていてもエラーが引き続き発生する場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターにご連絡ください。

POL-2105 イベント・オブジェクトの作成に失敗しました

原因: 内部イベントの作成時にエラーが発生しました。

処置: 製品が正しくインストールされていてもエラーが引き続き発生する場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターにご連絡ください。

POL-2106 イベント・オブジェクトの削除に失敗しました

原因: 内部イベントの削除時にエラーが発生しました。

処置: 製品が正しくインストールされていてもエラーが引き続き発生する場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターにご連絡ください。

POL-2107 イベント・オブジェクトがタイムアウトになりました

原因: スレッドまたはセッションが内部イベントを待機中にエラーが発生しました。

処置: 製品が正しくインストールされていてもエラーが引き続き発生する場合は、[オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

POL-2108 他のスレッドによりイベント・オブジェクトが不正に破棄されました

原因: 内部イベントを待機中にエラーが発生しました。

処置: 製品が正しくインストールされていてもエラーが引き続き発生する場合は、[オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

POL-2109 イベント待ちに失敗しました

原因: 内部イベントを待機中にエラーが発生しました。

処置: 製品が正しくインストールされていてもエラーが引き続き発生する場合は、[オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

POL-2110 イベント・オブジェクトの設定に失敗しました

原因: イベントの設定時（おそらく待ちスレッドを起動しているとき）にエラーが発生しました。

処置: 製品が正しくインストールされていてもエラーが引き続き発生する場合は、[オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

POL-2111 待ちイベントが多すぎます

原因: データベースまたはプログラムが、オペレーティング・システムで定義されている最大数よりも多くの待ちイベントを使用しようとしてしました。（Windows NT では最大イベント数は 64 です。）

処置: 製品が正しくインストールされていてもエラーが引き続き発生する場合は、[オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

1.3 POL 2200 ~ 2299 共有メモリー・メッセージ

POL-2200 マップ・ファイルの作成に失敗しました

原因: データベースが共有メモリー・キャッシュ領域を作成できませんでした。

処置: オペレーティング・システムの仮想メモリーが不足している可能性があります。[オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

POL-2201 ファイルのアンマップに失敗しました

原因: データベースは共有メモリー領域をリリースできませんでした。

処置: システムを再起動し、[オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

POL-2202 共有メモリー領域が不足しています

原因: データベースはキャッシュ用に共有メモリーのページを割り当てられませんでした。

処置: すべての Oracle Lite セッションをシャットダウンして、再起動してください。

POL-2203 共有メモリーに一貫性がありません

原因: 共有メモリーが破壊された可能性のあることがデータベースで検出されました。

処置: すべての Oracle Lite セッションをシャットダウンして、再起動してください。
または、[オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

1.4 POL 2300 ~ 2499 データ型システム・メッセージ

POL-2300 NULL バッファ・ポインタが検出されました

原因: データベースで無効な内部ポインタが検出されました。

処置: [オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

POL-2401 数値が有効範囲ではありません

原因: 数値が変換できなかったか、データ型に対して大きすぎました。

処置: より大きなデータ型を宣言するか、より大きなバッファを割り当ててください。

POL-2402 分母がゼロです

原因: SQL がゼロによる除算を実行しようとしてしました。

処置: SQL 文の構文エラーをチェックして、文を再発行してください。

POL-2403 列の値が大きすぎます

原因: 割り当てられたバッファよりも結果の文字列が大きすぎたため、文字列の右端から文字が切り捨てられました。

処置: SQL 文にエラーがないかチェックするか、バッファ・サイズを大きくします。

POL-2404 キャスト変換に無効な文字が指定されています

原因: 文字列内の文字を日付または数値に変換するときに、データベースで無効な文字が検出されました。

処置: 文字列をチェックして、無効な文字を削除してください。

POL-2405 SUBSTR SQL 関数でエラーが発生しました

原因: SUBSTR SQL 関数の実行中にデータベースでエラーが検出されました。

処置: 入力文字列および関数パラメータにエラーがないかチェックし、エラーがある場合はそれを修正してから SQL 文を再発行してください。

POL-2406 SQL TRIM 関数にエラーが発生しました

原因: SQL TRIM 関数の実行中にデータベースでエラーが検出されました。

処置: 入力文字列および関数パラメータをチェックし、エラーがある場合はそれを修正してから SQL 文を再発行してください。

POL-2407 精度、スケールまたは長さが 38 桁を超えています

原因: 乗算演算の結果が 39 桁以上になりました。

処置: 入力文字列をチェックし、必要に応じて変更してください。

POL-2408 メモリー不足です

原因: LIKE または TO_CHAR 関数の実行中に、データベースのメモリーが足りなくなりました。

処置: 入力文字列をできるだけ単純にしてください。

POL-2409 NULL 値に対して標識が提供されませんでした

原因: データベースで NULL 値が検出されましたが、アプリケーションが標識変数を提供しなかったため、Oracle Lite はこの値の情報を提供できません。

処置: 標識変数を指定して、アプリケーションを再コンパイルしてください。

POL-2410 SQL-92 メッセージ用に確保されています

原因: 将来の使用のために確保されています。

処置: アクションは必要ありません。

POL-2411 エスケープ・シーケンスが無効です

原因: LIKE 関数に提供された検索文字列内で、データベースが無効な エスケープ・シーケンスを検出しました。

処置: 検索文字列にエラーがないかチェックし、エラーがない場合は検索文字列を単純にしてください。

POL-2412 エスケープ文字が無効です

原因: LIKE 関数の検索文字列内のエスケープ文字は、シングルバイト文字である必要があります (マルチバイト文字の可能性もあります)。

処置: 検索文字列をチェックしてください。

POL-2413 間隔フィールドがオーバーフローしました

原因: INTERVAL の演算結果が、列またはデータ型の精度を超える値になりました。

処置: 列サイズを変更するか、より大きなデータ型を選択してください。

POL-2414 システムから現在の時刻を取得できません

原因: Oracle Lite がシステム・クロックを読み込めませんでした。

処置: 「異常な状態」としてレポートしてください。

POL-2415 DATE、TIME または TIMESTAMP フィールドがオーバーフローしました

原因: 日付列に間隔を追加したときに、年が 9999 を超えたか、エラーが発生しました。

処置: エラーを起こした入力文字列をチェックしてください。製品が正しくインストールされていてもエラーが引き続き発生する場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターにご連絡ください。

POL-2416 DATE、TIME または TIMESTAMP の形式が無効です

原因: 文字列を有効な DATE、TIME または TIMESTAMP 値に変換できませんでした。

処置: 入力文字列をチェックし、必要に応じて変更してください。入力文字列は、リテラル文字列のいずれかの形式または TO_DATE 関数のフォーマット文字列で指定されている形式と一致している必要があります。

POL-2417 時間帯の値が無効です

原因: これは異常な状態です。

処置: 「異常な状態」としてレポートしてください。

POL-2418 文字列が NULL で終わっていません

原因: これは異常な状態です。

処置: 「異常な状態」としてレポートしてください。

POL-2419 TRUNC 関数に無効なデータが指定されました

原因: TRUNC 関数に指定された列のデータ型を丸めることができません。

処置: 構文エラーをチェックして、SQL 文を再発行してください。

POL-2420 TO_CHAR 関数に無効なデータが指定されました

原因: TO_CHAR 関数では、指定されたデータ型を処理できません。

処置: オンライン・ヘルプで TO_CHAR 関数の使用方法を確認して、SQL 文を修正してください。

POL-2421 NUMBER に無効な形式が指定されました

原因: TO_NUMBER 変換のフォーマット文字列が無効です。

処置: フォーマット文字列にエラーがないかチェックして、SQL 文を再発行してください。

POL-2422 NUMBER に無効な値が指定されました

原因: TO_NUMBER 変換の入力文字列が無効です。

処置: 入力文字列にエラーがないかチェックして、SQL 文を再発行してください。

POL-2423 DATE、TIME または TIMESTAMP フィールドの値が無効です

原因: 日付または時刻が無効です。

処置: 入力値にエラーがないかどうかチェックしてください。

POL-2424 LIKE 関数に無効なデータ型が指定されました

原因: LIKE 関数は文字データのみを操作できます。

処置: データを文字値に変換またはキャストするか、SQL 文にエラーがないかチェックしてください。

POL-2425 データ型をキャストできません

原因: 特定のデータ型変換は禁止されています。たとえば、DATE から NUMBER への変換はできません。

処置: SQL 構文をチェックして、やり直してください。

POL-2426 文字列の長さが 32000 バイトを超えています

原因: 文字列操作の結果が 32000 バイトを超えています。

処置: SQL 構文をチェックして、やり直してください。

POL-2427 エスケープ文字に続く文字が、存在しないか正しくありません

原因: LIKE 句の検索パターンで、エスケープ文字に続く文字が正しくないか、存在しません。

処置: 検索パターンをチェックしてやり直してください。

POL-2428 指定されたデータベース・パラメータ NLS_SORT は無効です

原因: 指定されたデータベース・パラメータ NLS_SORT は無効です。

処置: 有効な NLS_SORT 値のみを使用してください。

1.5 POL 3000 ~ 3399 オブジェクト・カーネル・メッセージ

オブジェクト・カーネルとは、最も低レベルのデータベース記憶域、索引付けおよび走査をいいます。

POL-3001 NULL の戻りポインタは許されません

原因: コール側プログラムで、戻り値へのポインタを提供できませんでした。

処置: [オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

POL-3002 NULL バッファ・ポインタは許されません

原因: コール側プログラムで、必須値へのポインタを提供できませんでした。

処置: [オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

POL-3004 NULL のオプション・ポインタは許されません

原因: コール側プログラムで、必須オプションへのポインタを提供できませんでした。

処置: [オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

POL-3005 ヒープ・メモリーが不足しています

原因: 内部メモリー割当てエラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターにご連絡ください。

POL-3006 NULL ハンドルは許されません

原因: 内部エラーです。コール側プログラムで、コンテキスト・ポインタを提供できませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターにご連絡ください。

POL-3007 NULL の名前は許されません

原因: 内部エラーです。コール側プログラムで、名前バッファへのポインタを提供できませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターにご連絡ください。

POL-3008 NULL オブジェクト ID は許されません

原因: 内部エラーです。コール側プログラムで、オブジェクト参照を提供できませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターにご連絡ください。

POL-3009 無効なボリューム ID が検出されました

原因: 内部エラーです。データベース・ファイルをオープンするときにデータベースで負のボリューム ID が検出されました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターにご連絡ください。

POL-3010 デバイス・シーク・エラーが検出されました

原因: システムによりディスク・シーク操作中のエラーがレポートされました。

処置: ハード・ディスクをチェックするか、オペレーティング・システムを再起動してください。

POL-3011 デバイス読み込みエラーが検出されました

原因: システムによりディスク読み込み操作中のエラーがレポートされました。

処置: ハード・ディスクをチェックするか、オペレーティング・システムを再起動してください。

POL-3012 デバイス書き込みエラーが検出されました

原因: システムによりディスク書き込み操作中のエラーがレポートされました。

処置: ハード・ディスクをチェックするか、オペレーティング・システムを再起動してください。

POL-3013 データベースが不良であるか、パスワードが無効です

原因: データベースまたはログファイルをオープンできなかったか、ファイル・ヘッダーが壊れています。データベースの復号化に正しくないパスワードを使用した可能性があります。

処置: 正しいパスワードを入力してハード・ディスクをチェックするか、オペレーティング・システムを再起動してください。

POL-3014 デバイスのアンマウントに失敗しました

原因: システムによりディスク・ファイルのクローズ中のエラーがレポートされました。

処置: ハード・ディスクをチェックするか、オペレーティング・システムを再起動してください。

POL-3015 ボリュームがマウントされませんでした

原因: これは異常な状態です。

処置: 「**異常な状態**」としてレポートしてください。

POL-3016 ボリュームは使用中です

原因: 同じボリューム ID のデータベース・ファイルがすでにマウントされています。

処置: DBINFO ユーティリティを使用して、データベース・ファイルのボリューム ID をチェックしてください。

POL-3017 作成されたファイルが多すぎます

原因: プログラムでオープンしようとした内部グループ・ファイルが多すぎます。

処置: [オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

POL-3018 マウントされたボリュームが多すぎます

原因: プログラムでオープンしようとしたデータベース・ファイルが多すぎます。

処置: データベース・ファイルの最大オープン数はシステムによって異なります。

POL-3019 ディスク領域が不足しています

原因: ハード・ディスク領域が不足しているか、データベースが作成されたときに指定されたエクステンツ・サイズが小さすぎます。

処置: 使用可能なハード・ディスク領域をチェックするか、エクステンツを大きくしてデータベース・ファイルを再作成してください。

POL-3020 ページ番号が無効です

原因: 内部エラーです。壊れたオブジェクト ID がデータベースで検出されたか、解放されたオブジェクトを参照しようとした。

処置: [オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

POL-3021 ボリューム・ヘッダーが壊れています

原因: 壊れたファイル・ヘッダーがデータベースで検出されました。

処置: ハード・ディスクにエラーがないかチェックしてください。エラーが引き続き発生する場合は、[オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

POL-3022 指定されたデータベース名が長すぎます

原因: データベース名は 128 文字以下です。

処置: データベース名を短くしてください。

POL-3023 データベースが存在しません

原因: 指定されたデータベース・ファイルをデータベースでオープンできませんでした。

処置: データベース名をチェックして、ファイルが存在することを確認してください。Oracle Lite は現在の作業ディレクトリ内でデータベース・ファイルを探します。ODBC を使用している場合、Oracle Lite は接続時に指定されたデータ・ソース名に指定されているディレクトリ内でデータベース・ファイルを探します。

POL-3100 使用可能バッファがありません

原因: 内部エラーです。データベースで使用可能なページ・バッファが見つかりませんでした。

処置: [オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

POL-3101 壊れたバッファ表が検出されました

原因: 内部エラーです。ページ・バッファ表が壊れています。

処置: [オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

POL-3200 スロットが削除されました

原因: 削除されたオブジェクトを参照したために発生した内部エラーです。

処置: [オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。OKAPI を直接使用している場合は、オブジェクトを okFix する必要があります。

POL-3201 スロット番号が無効です

原因: 削除されたオブジェクトを参照したために発生した内部エラーです。データベースのオブジェクト（行など）にはそれぞれ、2 次記憶装置でのオブジェクトの位置を識別する一意オブジェクト識別子（OID）があります。それぞれのデータベース・ファイルは、ディスク・ページという固定サイズのチャンクに分割されています。次の場合、OID は無効になります。

- OID を使用して参照したディスク・ページがデータベース・ファイルにない場合。
- ディスク・ページに対する物理読取りまたは物理書込みがオペレーティング・システムの関連エラーのために失敗した場合。

- ディスク・ページの (OID の内部エンコーディングで指定された) オブジェクト・アドレスがページの外にある場合。
- ページにオブジェクトが見つからない場合。

処置: OKAPI を直接使用している場合は、オブジェクトを `okFix` する必要があります。使用していない場合は、[オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

POL-3203 BLOB ブロックのアドレスが正しくありません

原因: 存在しない BLOB の一部をプログラムで読み込もうとしました。

処置: コールのオフセットまたは長さパラメータをチェックして、やり直してください。

POL-3204 演算子が無効です

原因: 無効な比較演算を行うようにアプリケーションまたはデータベースで指示されました。

処置: [オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

POL-3205 再分類はサポートされません

原因: アプリケーションが、別のクラスに属するオブジェクトを更新しようとした。これは異常な状態です。

処置: 「**異常な状態**」としてレポートしてください。

POL-3206 オブジェクト記憶領域に対するヒントが無効です

原因: 内部エラーです。

処置: [オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

POL-3207 壊れたデータ・ページが検出されました

原因: 内部エラーです。

処置: [オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

POL-3220 一意索引または主索引キーが重複しています

原因: プログラムで、一意キー制約または主キー制約に違反する行を挿入しようとした。

処置: SQL 文またはオブジェクト属性を変更して、再発行してください。

POL-3221 主索引に NULL キーがあります

原因: 主キーの値は NULL にはできません。

処置: 主キーの値を指定してください。

POL-3222 指定されたキーを検索できません

原因: データベースで検索キーと一致するレコードが見つかりませんでした。

処置: これは通常致命的なエラーではなく、アプリケーションで処理するエラーです。

POL-3223 削除すべき索引が見つかりませんでした

原因: 内部エラーです。

処置: [オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

POL-3224 索引キーの値が長すぎます

原因: 複数列索引キーのすべての列の合計長が 1000 バイトを超えています。

処置: 短い列集合を指定してください。

POL-3228 壊れた索引ページが検出されました

原因: 内部エラーです。データベースで索引に無効なページが見つかりました。

処置: 索引を削除して再作成してください。

POL-3229 壊れた索引ファイルが検出されました

原因: 内部エラーです。データベースで不適切な索引が見つかりました。

処置: 索引を削除して再作成してください。

POL-3251 指定された名前のグループ・ファイルがありません

原因: 指定された名前を持つ内部グループ・ファイルがデータベースで見つかりませんでした。

処置: [オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

POL-3252 この属性に対する索引がありません

原因: データベースまたはアプリケーションが、索引のない属性または列で索引を検索しようとした。

処置: 索引を作成してください。

POL-3253 グループ・ファイルはすでに存在しています

原因: 同じクラス名を持つ内部グループ・ファイルがすでに存在しています。

処置: ファイルに他の名前を選択してください。

POL-3254 グループ・ファイル番号が無効です

原因: 内部エラーです。

処置: [オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

POL-3255 グループ・ファイルの型が無効です

原因: 内部エラーです。索引の型が無効です。

処置: [オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

POL-3256 壊れたファイル表が検出されました

原因: 内部エラーです。

処置: [オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

POL-3257 ラージ・オブジェクトをソートできません

原因: データベースは、LONG、LONG VARCHAR または LONG VARBINARY 列をソートできません。

処置: 最初の 1000 バイトの値が一意であれば、索引を作成してください。

POL-3260 トランザクションで無効な操作が見つかりました

原因: アプリケーションまたはデータベースで、トランザクションが終了しないうちにデータベースがクローズした、トランザクションが実行中に解放された、またはトランザクションの実行中にトランザクション・ハンドルが再利用されました。

処置: 実行中のトランザクションを COMMIT または ROLLBACK してください。

POL-3261 トランザクションが多すぎます

原因: これは異常な状態です。

処置: 「[異常な状態](#)」としてレポートしてください。

POL-3262 トランザクションが非活動状態です

原因: これは異常な状態です。

処置: 「[異常な状態](#)」としてレポートしてください。

POL-3263 デッドロックが検出されました

原因: 実行中のスレッドが 2 つあり、それぞれがもう一方のリソースを解放するのを待っています。

処置: ウィンドウをいくつかクローズするか、アプリケーションを再起動してください。

POL-3264 NOWAIT が指定されましたが、現在の行は別の接続によってロックされています

原因: ある接続が SELECT FOR UPDATE NOWAIT を発行しましたが、現在の行は別の接続によりロックされています。

処置: 別の接続により行がロックされているときに、アプリケーションが（その接続がロックを解放するまで待つのではなく）処理を進めることができるように、このエラーがレポートされます。他の処理を先に実行してから、再びロックの取得を試みることができます。

POL-3265 トランザクション・オプションが無効です

原因: 内部エラーです。

処置: [オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

POL-3266 キャッシュ・オブジェクト状態が無効です

原因: 内部エラーが発生したか、共有メモリー・キャッシュが壊れています。

処置: [オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

POL-3267 読み専用データベースまたは重大なセクションは更新できません

原因: 読み専用データベースを更新しようとしたか、FOR UPDATE 句を含まない SELECT 文を使用してストアド・プロシージャをコールしています。

処置: ODB ファイルが読み専用モードでないことを確認し、必要な場合は修正してください。

POL-3301 壊れた走査表が検出されました

原因: 無効なカーソルがクラスまたは索引を走査しようとしたことがデータベースで検出されました。

処置: アプリケーションを再起動してください。

POL-3302 走査の型に操作との互換性がありません

原因: 無効なカーソルがクラスまたは索引を走査しようとしたことがデータベースで検出されました。

処置: アプリケーションを再起動してください。

POL-3303 走査 ID が正しくありません

原因: 内部エラーです。

処置: [オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

POL-3304 移動されたオブジェクトは直接参照できません

原因: 内部エラーです。

処置: [オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

POL-3305 間違ったクラスのオブジェクトが取り出されました

原因: 内部エラーです。

処置: [オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

POL-3307 Database not encrypted

原因: 暗号化されていないデータベースを復号化しようとしてしました。

処置: アクションは必要ありません。

POL-3308 Database mount failed due to collation conflict

原因: データベース・ファイルをデータベースでオープンできませんでした。これは、マウント中のデータベースが、すでにマウントされているのと異なる照合順序を使用して作成された場合に発生します。

処置: 同時に異なる照合順序を使用して、データベース・ファイルをマウントしないようにします。

1.6 POL 4000 ~ 4999 オブジェクト・カーネル API メッセージ

オブジェクト・カーネル・アプリケーション・プログラム・インタフェース (OKAPI) により、オブジェクト・カーネルへのインタフェースが提供されます。

POL-4000 NULL オブジェクトは許されません

原因: コール側プログラムで、NULL のオブジェクト・ポインタが指定されました。

処置: オブジェクト・ポインタを指定してください。

POL-4001 NULL の戻りポインタは許されません

原因: コール側プログラムで、NULL の戻りポインタが指定されました。

処置: 戻りポインタを指定してください。

POL-4002 NULL の名前は許されません

原因: コール側プログラムで、NULL の名前ポインタが指定されました。

処置: 名前ポインタを指定してください。

POL-4003 NULL の環境ハンドルは許されません

原因: コール側プログラムで、NULL の環境ハンドルが指定されました。

処置: 環境ハンドルを指定してください。

POL-4004 環境ハンドルが無効です

原因: コール側プログラムで、無効な環境ハンドルが指定されました。

処置: 有効な環境ハンドルを指定してください。

POL-4005 NULL のクラス・オブジェクトは許されません

原因: コール側プログラムで、NULL のクラス・ポインタが指定されました。

処置: クラス・ポインタを指定してください。

POL-4006 NULL の属性オブジェクトは許されません

原因: コール側プログラムで、NULL の属性ポインタが指定されました。

処置: 属性ポインタを指定してください。

POL-4007 属性の位置が無効です

原因: コール側プログラムで指定された属性位置番号が、クラス内の属性の数を超えています。

処置: クラス内の属性の数以下の属性位置番号を指定してください。

POL-4008 属性に NULL バッファは許されません

原因: コール側プログラムで、属性データを指す必要があるポインタに NULL のバッファ・ポインタが指定されました。

処置: 属性データを指すバッファ・ポインタを指定してください。

POL-4009 NULL ポインタは許されません

原因: コール側プログラムで、有効なポインタを必要とするところに NULL ポインタが指定されました。

処置: 有効なポインタを指定してください。

POL-4010 データベース・オブジェクトに NULL ハンドルは許されません

原因: コール側プログラムで、NULL のデータベース・ハンドルが指定されました。

処置: 有効なデータベース・ハンドルを指定してください。

POL-4011 グループ・オブジェクトに NULL ハンドルは許されません

原因: コール側プログラムで、NULL のグループ・ハンドルが指定されました。

処置: グループ・オブジェクトに有効なハンドルを指定してください。

POL-4100 トランザクションがアクティブな状態では、データベースを作成できません

原因: トランザクションがアクティブなときに、新しいデータベース・ファイルを作成しようとしてしました。

処置: オープンされているトランザクションを COMMIT または ROLLBACK してください。

POL-4101 データベースが接続されていません

原因: コール側プログラムで、接続されていないデータベース・ファイルを参照しようとしてしました。

処置: フェッチするオブジェクト内のボリューム ID と一致するデータベース・ファイルをオープンしてください。

POL-4102 データベース参照が無効です

原因: コール側プログラムで、接続されていないか、壊れている可能性のあるデータベース・ファイルを参照しようとしてしました。

処置: 更新するオブジェクト内のボリューム ID と一致するデータベース・ファイルをオープンしてください。

POL-4103 アクティブな環境が多すぎます

原因: コール側プログラムで、オープンしようとしたデータベース接続が多すぎます。

処置: 接続をいくつかクローズしてください。

POL-4104 重複したボリューム ID ではデータベースをマウントできません

原因: コール側プログラムで、すでにオープンしているデータベースと同じボリューム ID のデータベースをオープンしようとしてしました。

処置: データベースのボリューム ID は、システム内で一意である必要があります。ID を確認するには、DBINFO プログラムを使用してください。

POL-4105 接続されているデータベースが多すぎます (データベースは最大で 6 つまでです)

原因: データベースまたはカタログがすでに 6 つ接続されています。

処置: 接続をいくつかクローズしてください。

POL-4106 内部エラー: アクティブなデータベースが切断されます

原因: これは異常な状態です。

処置: 「**異常な状態**」としてレポートしてください。

POL-4107 内部エラー: トランザクション ID が無効です

原因: データベースが無効なトランザクション ID を検出しました。

処置: [オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

POL-4108 デッドロックが検出されました

原因: スレッド、セッションまたはタスク間のリソース・デッドロックがデータベースで検出されました。

処置: アプリケーションを再起動してください。

POL-4200 トランザクション操作に対するアクションが無効です

原因: okTransact () 関数が無効な引数でコールされました。

処置: 関数の構文をチェックして、再度コールしてください。

POL-4201 トランザクション分離レベルが正しくありません

原因: プログラムで分離レベルを無効な値に設定しようとしてしました。

処置: コール内の引数をチェックして、やり直してください。

POL-4202 選択が読みコミット・モードでアクティブの間は更新できません

原因: FOR UPDATE 句を含まない SELECT 文を使用してストアド・プロシージャをコールしました。このプロシージャでは FOR UPDATE 句を含む SELECT 文を発行しようとしてしました。

処置: 外部 SELECT 文を修正して、FOR UPDATE 句を使用するようにしてください。

POL-4300 グループ名はすでに使われています

原因: プログラムでグループを登録しようとしたますが、グループ名はすでに存在していることがわかりました。

処置: 新しいグループに別の名前を選択してください。

POL-4301 グループ・オブジェクトが無効です

原因: 内部エラーです。データベースが、壊れているグループ・オブジェクトを検出しました。

処置: [オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

POL-4302 メタ・オブジェクトは直接削除できません

原因: 内部エラーです。メタ・オブジェクトを削除しようとししないでください。

処置: [オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

POL-4303 操作は、一時オブジェクトには適用できません

原因: 内部エラーです。コール側プログラムで、一時オブジェクト・グループに BLOB を作成しようとした。

処置: [オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

POL-4304 NULL 値は NOT NULL 列に挿入できません

原因: アプリケーションで、NOT NULL 制約に違反するような属性または列に NULL 値を挿入しようとした。

処置: 属性または列に値を指定してください。

POL-4305 操作は固定オブジェクトにのみ有効です

原因: `okGetAttrVal()` 関数が戻り値をバッファにコピーせずにコールされました。

処置: 関数コールを再発行する前に、バッファを指定してフラグを設定するか、オブジェクトを固定してください。

POL-4306 オブジェクト・キャッシュが無効です

原因: 内部エラーです。オブジェクト・キャッシュが壊れている可能性があります。

処置: アプリケーションを再起動し、[オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

POL-4307 無効なロック・モードが指定されました

原因: `okLoadGroup()` または `okFixObj()` 関数のコールで、無効なロック・モードが指定されました。

処置: ロック・モード・パラメータにエラーがないかチェックして、関数コールを再発行してください。

POL-4308 256 を超えるグループに同時にアクセスすることはできません

原因: 他のグループを登録しようとしたが、データベースに許可されているグループの数を超えました。

処置: グループの使用数を減らしてください。

POL-4309 オブジェクトが固定されていません

原因: 固定されていないオブジェクトを更新しようとした。

処置: オブジェクトを更新する前に、okFixObj () 関数をコールしてください。

POL-4310 属性バッファが小さすぎます

原因: okGetAttrVal () 関数コールで指定されたバッファが、データを返すには小さすぎます。

処置: 戻り値用に大きなバッファを指定してください。

POL-4311 NULL のデフォルト値が NOT NULL 制約に違反する可能性があります

原因: コール側プログラムで、NOT NULL 制約の存在するところに、NULL でないデフォルト値を定義せずに、クラスに属性（または表に列）を追加しようとした。

処置: NULL でないデフォルト値を指定してください。

POL-4312 外部キー整合性の制約に違反しています

原因: Insert、Delete または Update 文が、外部キー制約に違反しました。

処置: 文で使用している値をチェックし、修正してください。

POL-4313 表の主キーは 1 つしか許されません

原因: ALTER TABLE 文がすでに主キーが 1 つある表に主キーを作成しようとした。

処置: まず既存の主キーを削除してください。

POL-4314 指定された制約がありません

原因: 名前付き制約が存在しないところで、ALTER TABLE 文が名前付き制約を削除しようとした。

処置: 制約が存在することをチェックするか、構文エラーのある ALTER TABLE 文を修正してください。

POL-4315 NOT NULL 制約を削除できません

原因: ALTER TABLE 文で、NOT NULL 制約を削除しようとした。

処置: NOT NULL 制約のない表を再作成してください。

POL-4316 索引が存在しません

原因: 存在しない索引を削除しようとした。

処置: 索引名をチェックして、SQL 文を再発行してください。

POL-4317 チェック制約に違反しています

原因: 表 / クラスで定義されているチェック制約に違反しています。

処置: 挿入または更新する新しいデータ値を修正してください。

POL-4318 サポートされていない操作がチェック制約で使われました

原因: サポートされていない式または ROUND() などの SQL 関数をチェック制約で使用しています。

処置: チェック制約の定義を簡単にするか、いくつかのチェック制約を実装するトリガーを定義してください。

POL-4319 制約はすでに存在します

原因: 重複した制約（主キーまたはチェック）名を使用しています。

処置: チェック制約の定義を修正して、制約に一意的な名前を付けてください。

POL-4400 クラスはすでに定義されています

原因: 同じ名前のクラスがすでに存在します。

処置: 新しいクラスに別の名前を選択してください。

POL-4401 参照クラスはまだ定義されていません

原因: 宣言されていないクラスとの関連を定義しようとしてしました。

処置: 参照先のクラスを宣言してから、関連を定義してください。

POL-4402 参照先のクラスは削除されています

原因: すでに削除されているクラスを参照しようとしてしました。

処置: クラス名をチェックしてください。

POL-4403 属性名またはメソッド名が無効です

原因: クラスに対して指定された名前を持つ属性またはメソッドを見つけられませんでした。

処置: 名前をチェックしてやり直してください。

POL-4404 属性名が重複しています

原因: 指定した名前の属性または列がすでに存在します。

処置: 他の名前を選択してください。

POL-4500 OK_BTREE のみ使用できます

原因: okCreateIndex() コール内に無効な索引の型がありました。

処置: 索引の型パラメータをチェックしてください。

POL-4501 反復方向が無効です

原因: `okIterate()` コール内に無効な方向パラメータがありました。

処置: パラメータをチェックし、必要に応じて変更してから `okIterate()` コールを再発行してください。

POL-4502 入力イテレータが無効です

原因: イテレータの番号が無効か、壊れた状態となっています。

処置: イテレータの番号をチェックしてください。

POL-4503 入力カーソルが無効です

原因: カーソルが無効か、壊れた状態となっています。

処置: カーソルの番号をチェックしてください。

POL-4504 検索条件内の演算子が無効です

原因: コール側プログラムで、`okCreateIterator()` 内に無効な検索演算子が指定されました。

処置: 検索条件をチェックして、関数コールを再発行してください。

POL-4505 検索条件内の連結語が無効です

原因: コール側プログラムで、`okCreateIterator()` 内に無効な検索連結語が指定されました。

処置: 有効な連結語を指定して、関数コールを再発行してください。

POL-4507 イテレータが多すぎます (最大で 32K までです)

原因: データベースで同時にオープンしているイテレータの数が多すぎます。

処置: イテレータをいくつかクローズしてください。

POL-4508 ORDER BY 属性で使用する索引がありません

原因: ORDER BY 属性で使用する索引がないため、順序イテレータを作成できません。

処置: ORDER BY 属性で使用する索引を作成し、関数コールを再発行してください。

POL-4509 サブクラスを持つクラスに対して、順序イテレータを使用できません

原因: クラスにサブクラスがある可能性があり `isImmediate` フラグが `FALSE` のため、順序イテレータを作成できません。

処置: `isImmediate` フラグを `TRUE` に設定して、関数コールを再発行してください。

POL-4600 関連はすでに定義されています

原因: コール側プログラムで、親の属性または列、あるいは子の属性または列のいずれかですでに関連が存在する 2 つのクラスまたは表の間に関連を作成しようとしてしました。属性は 1 つの親子関係にのみ設定できます。

処置: オブジェクトの階層を単純にしてください。

POL-4601 関連が定義されていません

原因: コール側プログラムで、`okDeleteRel()` を使用して関連を削除しようとしたが、関連が見つかりませんでした。

処置: これは致命的なエラーではなく、アクションは必要ありません。

POL-4602 関連のためオブジェクトは削除できません

原因: 他のオブジェクトへの関連を壊すことはできません。

処置: まず依存するオブジェクトを削除してから、オブジェクトを削除してください。

POL-4603 無効な関連の型が指定されました

原因: `okCreateRel()` へのコールで、コール側プログラムから無効な関連の型パラメータが渡されました。

処置: パラメータをチェックしてから、関数コールを再発行してください。

POL-4604 この属性に関連を構築できません

原因: データベースは関連に指定された属性の1つを見つけられませんでした。

処置: `okCreateRel()` コール内に指定されたパラメータをチェックしてください。

POL-4605 2つのデータベース間の関連を構築できません

原因: 関連のあるクラスは、同じデータベース・ファイルの中に存在する必要があります。

処置: `okCreateRel()` へのパラメータをチェックしてから、関数コールを再発行してください。

POL-4606 複数リンクのための余裕がありません

原因: データベースで属性の追加関連を記録できませんでした。おそらく、属性が固定サイズで定義されているためです。

処置: クラスを再定義して、属性を関連参照の動的配列にしてください。

POL-4607 単一の親関連に違反しています

原因: 属性は、単一の親関連のみを許可するものとして定義されています。

処置: クラスを再定義して、属性を関連参照の動的配列にしてください。

POL-4608 属性値が関連定義に違反しています

原因: 関連属性は、関連するクラスのインスタンスへの参照として定義する必要があります。この場合、「参照元」または「参照先」のポインタのどちらかが、異なるクラスへの参照として定義されています。

処置: クラスを再定義して、属性を正しいクラスへの参照にしてください。

POL-4700 操作は長いオブジェクトにのみ有効です

原因: コール側プログラムで、BLOB 以外の属性に BLOB 操作を試みました。

処置: パラメータをチェックしてから、操作を再発行してください。

POL-4701 操作は一時グループには有効ではありません

原因: これは異常な状態です。

処置: 「**異常な状態**」としてレポートしてください。

POL-4800 名前付きのオブジェクトを見つけられません

原因: 名前付きオブジェクトがディレクトリ内で見つかりません。

処置: オブジェクト名をチェックして、やり直してください。

POL-4801 オブジェクト名はすでに使われています

原因: 同じ名前のオブジェクトがディレクトリ内にすでに存在しています。

処置: オブジェクトに他の名前を選択してください。

POL-4802 オブジェクト名のパスが無効です

原因: オブジェクト名が無効です。

処置: パス名を正しく構成してください。

POL-4803 データの入っている名前のディレクトリは削除できません

原因: 名前付きオブジェクト・ディレクトリは、削除する前に空にする必要があります。

処置: ディレクトリ内の残りのオブジェクトを削除してから、ディレクトリを削除してください。

POL-4804 ディレクトリ・オブジェクトが必要です

原因: コール側プログラムで、ディレクトリに無効なポインタが指定されました。

処置: ディレクトリに有効なポインタを指定してください。

POL-4805 NULL のディレクトリ・オブジェクトは許されません

原因: コール側プログラムで、ディレクトリに NULL のポインタが指定されました。

処置: ディレクトリに有効なポインタを指定してください。

POL-4806 オブジェクト名に無効な文字が使われました

原因: コール側プログラムで、無効なオブジェクト名が指定されました。

処置: オブジェクト名をチェックしてください。オブジェクトのネーミング規則については、オンライン・ヘルプを参照してください。

POL-4900 動的配列に NULL ポインタは許されません

原因: コール側プログラムで、有効な動的配列が必要なところに NULL ポインタが指定されました。

処置: 動的配列に有効なポインタを指定してください。

POL-4901 マルチディメンション配列の使用が無効です

原因: マルチディメンション配列が、関連内の検索式、または属性のデフォルト値として使用されています。

処置: そのような使用方法はサポートされていません。

POL-4902 スナップショットの使用が無効です

原因: スナップショット上でのスキーマ進化に ALTER TABLE を使用できません。

処置: そのような使用方法はサポートされていません。

POL-4903 制約が使用禁止の間は、表に DML を使用できません

原因: 表の制約が DISABLE VALIDATE に設定されている間は、その表に対し DML は使用できません。

処置: 制約の状態を DISABLE VALIDATE 以外のものに変更してください。

POL-4904 NOT NULL 制約に違反しています

原因: NOT NULL 制約の列に、NULL 値を挿入しようとしました。

処置: 挿入する値をチェックするか、列の NOT NULL 制約を変更して NULL 値を許可するようにしてください。

1.7 POL 5000 ~ 5270 SQL 実行メッセージ

POL-5101 データが見つかりません

原因: 問合せの検索基準に一致する行が見つかりません。

処置: 表が空の可能性あります。SQL 問合せをチェックし、必要に応じて変更してから再発行してください。

POL-5102 記述子項目が足りません

原因: DESCRIBE 操作用に割り当てられている記述子が足りません。

処置: 結果の一部のみがレポートされます。

POL-5103 切断エラーが生じました

原因: データベースから切断するときエラーが検出されると、このメッセージがデータベースから返されます。

処置: データベースを再オープンして、データが失われていないことを確認してください。

POL-5104 集計関数の計算で NULL 値が排除されました

原因: SUM や AVG などの集計関数は、見つけた NULL 値をすべて廃棄します。

処置: アクションは必要ありません。これは警告です。

POL-5105 メモリー割当てに失敗しました

原因: データベースのヒープ・メモリーまたはオブジェクト・キャッシュ・メモリーが不足しています。

処置: アプリケーションを再起動してください。

POL-5106 クライアントが接続を確立できません

原因: アプリケーションがデータベースに接続できませんでした。

処置: 接続文字列に指定された情報が無効であることを示している場合があります。エラーの接続文字列をチェックして、データベースへの接続を再度試みてください。

POL-5107 サーバーが接続を拒否しました

原因: アプリケーションが新しいデータベース接続を確立できませんでした。

処置: 接続文字列に指定された情報が無効であることを示している場合があります。エラーの接続文字列をチェックして、データベースへの接続を再度試みてください。

POL-5109 環境ハンドルが無効です

原因: コール側プログラムで無効な環境ハンドルを渡しました。

処置: ハンドルをチェックし、必要に応じて変更してからやり直してください。

POL-5110 ハンドルが無効です

原因: コール側プログラムで無効なハンドルを渡しました。

処置: ハンドルをチェックし、必要に応じて変更してからやり直してください。

POL-5112 現行セッションではありません

原因: コール側プログラムで無効なセッション・オブジェクトを渡しました。

処置: オブジェクトをチェックし、必要に応じて変更してからやり直してください。

POL-5115 マーカーとホスト変数が一致しません

原因: SQL 文内の疑問符の数が、指定されたホスト変数の数と一致しません。

処置: エラーの SQL 文をチェックして、疑問符の数と一致するようにホスト変数を追加してください。

POL-5116 選択リストとホスト変数が一致しません

原因: SELECT リスト内の項目の数が、結果を受け取るために指定されているホスト変数の数と一致しません。

処置: 一致する数の正しい型のホスト変数を指定してください。

POL-5117 バインド・スタイルが異なっています

原因: これは異常な状態です。

処置: 「**異常な状態**」としてレポートしてください。

POL-5121 単一行選択に対して複数の行が返されました

原因: 1つの行のみを返す SQL 文が複数行を返しました。

処置: SQL 文に構文エラーがないかチェックして、エラーがある場合は修正し、ない場合は参照表をチェックしてください。

POL-5122 文の状態が無効です

原因: カーソルをオープンしたときに、データベースが無効な文の状態を検出しました。

処置: ODBC インタフェースを直接使用するプログラミングの場合は、コールの順序が違っている可能性があります。そうでない場合は、**オラクル社カスタマ・サポート・センター**にご連絡ください。

POL-5123 SELECT 文ではありません

原因: アプリケーションで、UPDATE、DELETE または INSERT 文に対してカーソルをオープンしようとしていました。

処置: UPDATE、DELETE または INSERT 文に対してカーソルを宣言しないでください。

POL-5124 互換性のないデータ型の間でキャストしました

原因: データベースが、列のデータ型を互換性のないデータ型に変更しようとしていました。

処置: **オラクル社カスタマ・サポート・センター**に連絡し、エラーの原因となった SQL 文を示してください。

POL-5125 記述子索引が無効です

原因: 内部エラーです。存在しない記述子をデータベースが探しています。

処置: **オラクル社カスタマ・サポート・センター**にご連絡ください。

POL-5128 表名が重複しています

原因: CREATE TABLE 文の実行中に、データベースが同じ名前前の表を検出しました。

処置: 新しい表に他の名前を選択して CREATE TABLE 文を再実行するか、既存の表を削除してください。

POL-5129 カタログが無効です

原因: カレント・ディレクトリに存在しないカタログを SQL 文が参照しました。

処置: データベースに接続するために使用している ODBC データ・ソース名で指定されたディレクトリに、参照データベース・ファイルをコピーしてください。

POL-5130 表またはビューが見つかりません

原因: データベースが見つけれられない表またはビューを SQL 文が参照しています。

処置: SQL 文のエラーをチェックし、必要に応じて表名またはビュー名を変更してください。

POL-5133 カーソル状態が無効です

原因: データベースが無効な状態のカーソルを検出しました。

処置: カーソルをクローズして、SQL 文を再発行してください。

POL-5134 ホスト変数の型が無効です

原因: 指定されたホスト変数の型が、返されるデータ型と互換性がありません。たとえば、整数は FLOAT 列からデータを受け取ることはできません。

処置: 正しい型のホスト変数を指定してください。

POL-5135 SQL 文でこのデータを割り当てることはできません

原因: アプリケーションは、SQL 文の一部として LONG VARCHAR、LONG VARBINARY および REF データをホスト変数にフェッチできません。

処置: LONG 型は、ODBC の SQLGetData のような適切な BLOB 関数を使用してフェッチします。

POL-5137 パラメータをバインドする必要があります

原因: プログラムで指定されたホスト変数の数が、SQL 文が必要とする入力パラメータの数と一致しません。

処置: ホスト変数が入力パラメータと一致しているかどうかチェックしてください。

POL-5138 列をバインドする必要があります

原因: プログラムで指定されたホスト変数の数が、SQL 文で返される列の数と一致しません。

処置: ホスト変数が SELECT リストと一致していることをチェックしてください。

POL-5139 カーソル名が無効です

原因: データベースが、アプリケーションで指定された名前前のカーソルを見つけられませんでした。

処置: カーソルがオープンされており、アプリケーションが有効な名前を持っていることをチェックしてください。

POL-5140 記述子名が無効です

原因: 埋込み SQL プログラムが sqlNameDesc() をコールしましたが、同じ名前前の列記述子がすでに存在しています。

処置: 列に対して別の名前を選択して、SQL 文を再発行してください。

POL-5141 記述子件数が無効です

原因: 列記述子の数が、SQL 文で示されている列数と一致しません。

処置: SQL 文に構文エラーがないかチェックして、エラーがない場合は記述子の数を列の数と一致するように変更してください。

POL-5142 記述子項目が無効です

原因: 内部エラーです。データベースが、無効な記述子項目を記述するように要求されました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターにご連絡ください。

POL-5143 整合性制約に違反しています

原因: SQL 文が実行時に整合性制約に違反しました。

処置: アクションは必要ありません。影響を受けた行は、以前の状態にロールバックされます。

POL-5144 データを挿入できません

原因: データベースが、DATE、TIME、TIMESTAMP、LONG VARCHAR または LONG VARBINARY 列に直接データを挿入しようとして失敗しました。

処置: 日付または時刻の値は TO_DATE() を使用して変換し、BLOB データは ODBC 関数 SQLPutData() を使用して挿入してください。

POL-5145 削除は制限されています

原因: 依存オブジェクトと RESTRICT 制約が存在するため、データベースは DELETE 操作を実行できません。

処置: 依存オブジェクトを削除し、DELETE 文を再発行してください。

POL-5146 文ハンドルが無効です

原因: 埋込み SQL プログラムで、無効な文ハンドルまたは名前が指定されました。

処置: プログラムにエラーがないかチェックしてください。

POL-5147 この機能はサポートされていません

原因: Oracle Lite がまだ使用していない機能または関数を、SQL 文で使用しようとして失敗しました。

処置: 文を修正して、サポートされていない機能または関数へのコールを削除してください。

POL-5148 カタログが見つかりませんでした

原因: カレント・ディレクトリに存在しないカタログを SQL 文が参照しました。

処置: データベースに接続するために使用している ODBC データ・ソース名で指定されたディレクトリに、参照データベース・ファイルをコピーしてください。

POL-5149 指定されたスキーマ名はすでに存在しています

原因: CREATE SCHEMA 文の実行中に、データベースが同じ名前のスキーマを見つけました。

処置: 古いスキーマで DELETE CASCADE を実行するか、新しいスキーマに別の名前を指定してください。

POL-5150 アクセス違反です

原因: プログラムがデータベースのシステム表にアクセスしようとしてしました。

処置: プログラムにエラーがないかチェックして、データベース・システム表へのコールを削除してください。

POL-5151 カタログはすでに定義されています

原因: すでに存在するカタログを SQL 文が参照しました。

処置: CREATE DATABASE を使用している場合は、異なる名前を作成してください。

POL-5152 スキーマが見つかりません

原因: データベースは、現行カタログに指定されたスキーマ名を見つけられませんでした。

処置: CREATE SCHEMA を使用して、カタログにスキーマ名を作成します。

POL-5153 索引はすでに存在します

原因: すでに存在する索引を CREATE INDEX 文で作成しようとしてしました。

処置: このエラーを無視して既存の索引を使用することも、あるいは既存の索引を削除して再度作成することもできます。

POL-5154 権限付与は拒否されました

原因: カレント・スキーマは、他のスキーマに権限を付与するのに必要な許可を持っていません。

処置: Oracle Lite は権限を施行しないため、アクションは必要ありません。

POL-5155 カーソルはスクロールできません

原因: これは異常な状態です。

処置: 「異常な状態」としてレポートしてください。

POL-5156 カーソルは読み込み専用です

原因: プログラムは、SELECT カーソルで位置を指定することによりカーソルを更新または削除しようとしてしました。

処置: SELECT 文で指定されているカーソルの名前をチェックして、文を再発行してください。

POL-5157 コールバック関数のエラーです

原因: これは異常な状態です。

処置: 「異常な状態」としてレポートしてください。

POL-5158 順序に対する INCREMENT BY エラーです

原因: 順序の増分値がゼロに設定されています。

処置: SEQUENCE を再作成してください。

POL-5159 順序の CURRVAL が無効です

原因: 新しい順序を作成した後で、プログラムが CURRVAL 値にアクセスできるようになるには、あらかじめ順序の NEXTVAL 値をフェッチしておく必要があります。

処置: NEXTVAL を取得してから CURRVAL を取得してください。

POL-5160 順序の MINVALUE は、MAXVALUE より小さくする必要があります

原因: 順序を作成または変更するとき、INCREMENT BY が正の場合は、MINVALUE を MAXVALUE より小さくする必要があります。INCREMENT BY が負の場合は、MAXVALUE を MINVALUE より小さくする必要があります。

処置: CREATE SEQUENCE 文の引数にエラーがないかチェックして、文を再発行してください。

POL-5161 順序の開始値は MINVALUE と MAXVALUE の間にしてください

原因: 順序を作成または変更するとき、順序の開始値は MINVALUE と MAXVALUE の間の値にする必要があります。

処置: CREATE SEQUENCE 文の引数にエラーがないかチェックして、文を再発行してください。

POL-5162 NEXTVAL が順序の MAXVALUE を超えました

原因: 順序が MAXVALUE に達しましたが、これを超えることはできません。

処置: ALTER SEQUENCE を実行して、MAXVALUE を増やしてください。

POL-5163 NEXTVAL が順序の MINVALUE を超えました

原因: 降順の順序が MINVALUE に達したため、これ以上減少することはできません。

処置: ALTER SEQUENCE を実行して MINVALUE を減らしてください。

POL-5164 順序が存在しません

原因: 存在しない順序を SQL 文が参照しました。

処置: 順序を作成してから、SQL 文を再発行してください。

POL-5165 最後の列を削除することはできません

原因: ALTER TABLE...DROP COLUMN 文で、表内のただ1つの列を削除しようとして
ました。

処置: かわりに表を DROP してください。

POL-5166 ビューが存在しません

原因: 存在しないビューを SQL 文が参照しました。

処置: CREATE VIEW を使用してビューを作成してから、SQL 文を再発行してくだ
さい。

POL-5167 索引が存在しません

原因: 存在しない索引の名前を DROP INDEX 文が指定しました。

処置: 索引名をチェックして、SQL 文を再発行してください。

POL-5168 削除するシノニムが存在しません

原因: 存在しないシノニムを DROP SYNONYM 文が参照しました。

処置: シノニム名をチェックして、SQL 文を再発行してください。

POL-5169 シノニムの変換はもはや有効ではありません

原因: 他の SQL 文の結果として表、ビューまたは順序が削除され、オブジェクトに存
在していたシノニムがなくなりました。

処置: シノニムを DROP するか、参照するオブジェクトを再作成してください。

POL-5170 オブジェクトと同じ名前のシノニムは作成できません

原因: CREATE SYNONYM 文で、ターゲットと同じ名前をシノニムに指定しようとし
ました。

処置: シノニムに他の名前を選択してください。

POL-5171 CONNECT BY の深さが 32 レベルを超えました

原因: CONNECT BY をコールしている階層型の結合 SELECT 文が再帰的になっている
可能性があります。階層型の結合は 32 レベルを超えないでください。

処置: SQL 文が自分自身にループ・バックできないようにしてください。

POL-5172 重複したシノニムが存在します

原因: CREATE SYNONYM 文で同じ名前のシノニムが見つかりました。

処置: シノニムに別の名前を選択して、SQL 文を再発行してください。

POL-5173 条件番号が無効です

原因: 埋込み SQL プログラムが、存在しない診断の条件を読み込もうとしました。

処置: sqlGetDiagCondPtr() へのコールに構文エラーがないかチェックしてくださ
い。

POL-5174 接続が存在しません

原因: データベース接続が存在しないところでプログラムがデータベース接続をオープンまたはクローズしようとしてしました。

処置: いったん終了し、接続し直してください。製品が正しくインストールされていてもエラーが引き続き発生する場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターにご連絡ください。

POL-5175 トランザクション状態が無効です

原因: トランザクションがアクティブであるときに、プログラムが切断しようとしてしました。

処置: 実行中のトランザクションを COMMIT または ROLLBACK してから切断してください。

POL-5176 接続名はすでに使われています

原因: 接続がカタログの名前を使用しています。これは同じ名前のカタログがすでにオープンされていることを示しています。

処置: 既存の接続を使用するか、クローズしてください。

POL-5177 索引内の列が多すぎます

原因: 索引または表の主キーには、最大 16 の列を加えることができます。

処置: 索引内の列の数を減らしてください。

POL-5178 オブジェクト名が重複しています

原因: プログラムで、すでに存在する名前のオブジェクトを作成しようとしてしました。

処置: 他の名前を選択してください。

POL-5179 主キーは 1 つしか許されません

原因: 表には 1 つの主キーしか含められません。

処置: 適切な主キーで表を再作成してください。

POL-5180 指定された主キーがありません

原因: 主キーが存在しないところで ALTER TABLE 文が主キーを削除しようとしてしました。

処置: 主キーが存在することをチェックするか、ALTER TABLE 文を修正してください。

POL-5181 指定された一意キーがありません

原因: UNIQUE 制約が存在しないところで ALTER TABLE 文が UNIQUE 制約を削除しようとしてしました。

処置: UNIQUE 制約が存在することをチェックするか、ALTER TABLE 文を修正してください。

POL-5182 指定された制約がありません

原因: 名前付き制約が存在しないところで ALTER TABLE 文が名前付き制約を削除しようとした。

処置: 制約が存在することをチェックするか、構文エラーのある ALTER TABLE 文を修正してください。

POL-5183 NOT NULL 制約を削除できません

原因: ALTER TABLE 文で、NOT NULL 制約を削除しようとした。

処置: 表を NOT NULL 制約なしで再作成する必要があります。

POL-5184 読込み専用スナップショット表は変更できません

原因: ローカル・ユーザーは、読取り専用スナップショット表を変更できません。

処置: スナップショットを変更しないようにアプリケーションを修正してください。

POL-5185 CONNECT BY で結合を確立できませんでした

原因: 階層型の結合を含む SQL 文で、他の表と結合しようとした。

処置: 結合を確立する目的で CONNECT BY を使用しないでください。

POL-5186 現行スキーマを削除できません

原因: データベースは、現在使用中のスキーマの削除からユーザーを保護しています。

処置: 別のユーザーとしてログインして、スキーマを削除してください。

POL-5187 SYSTEM を削除できません

原因: SYSTEM スキーマは、削除から保護されています。

処置: アクションは必要ありません。SYSTEM スキーマを削除しようとししないでください。

POL-5188 リフレッシュ中はスナップショット表を変更できません

原因: おそらく時間のかかるトランザクションの一部として、スナップショット表がリフレッシュされています。リフレッシュ・サイクルが完了するか異常終了するまでは、変更できません。

処置: 切断して、必要に応じてリフレッシュ操作を異常終了してください。

POL-5189 索引は実表に対してのみ作成できます

原因: ユーザーがビューまたは順序に対して索引を作成しようとした。

処置: アクションは必要ありません。索引は実表に対してのみ作成してください。

POL-5190 user.table.column、table.column または column の指定が無効です

原因: SQL 文で指定された列が見つかりません。

処置: 列、表およびユーザー / スキーマが存在することをチェックしてください。

POL-5191 トリガーが存在しません

原因: 削除するために指定されたトリガーを DROP TRIGGER 文で見つけられませんでした。

処置: 名前をチェックして、SQL 文を再発行してください。

POL-5192 トリガーはすでに存在しています

原因: CREATE TRIGGER 文で、同じ名前のトリガーがすでに存在していることがわかりました。

処置: SQL 文の構文エラーをチェックして、SQL 文を再発行してください。または、重複したトリガーを削除して、SQL 文を再発行してください。

POL-5193 引数の数が一致していません

原因: ストアド・プロシージャ・コールにおける引数の数が、プロシージャで期待される引数の数と一致していません。

処置: SQL 文の構文エラーをチェックして、コールを再発行してください。

POL-5194 オープンしている文ハンドルが多すぎます (最大で 128 までです)

原因: アクティブな SQL 文が多すぎます。

処置: プログラムで各 SQL 文ハンドルを使用した後、クローズしてください。

POL-5195 内部エラー: BLOB が NULL です

原因: BLOB オブジェクトが作成されていません。

処置: 内部エラーです。 [オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

POL-5196 内部エラー: BLOB 作成が無効です

原因: BLOB オブジェクトの無効な作成をしようとした。

処置: 内部エラーです。 [オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

POL-5197 セーブポイントが存在しません

原因: REMOVE または ROLLBACK 文でセーブポイント名を見つけれませんでした。

処置: 名前をチェックして、SQL 文を再発行してください。

POL-5198 セーブポイント名が重複しています

原因: SAVEPOINT 文で、同じ名前のセーブポイントがすでに存在していることがわかりました。

処置: SQL 文でセーブポイント名が重複していないかチェックして、SQL 文を再発行してください。

POL-5199 現在の分離レベルではカーソル型が無効です

原因: このカーソル型は現在の分離レベルでは使用できません。

処置: カーソル型をチェックして異なるカーソル型を再度割り当ててください。

POL-5201 表名が重複しています

原因: CREATE TABLE 文で、すでに存在する表名を参照しました。

処置: 古い表を削除するか、エラーを無視してください。

POL-5202 列名が重複しています

原因: CREATE または INSERT 文で列名が 2 回指定されました。列名は、表、ビューまたはクラスト内で一意である必要があります。

処置: CREATE 文では、列名の 1 つを新しい一意な列名に変更してください。INSERT 文では、重複した名前的一方を削除してください。

POL-5203 スキーマ名が無効です

原因: スキーマ名を認識できないか、そのユーザーとして接続していないときにスキーマを使用しようとしてしました。

処置: スキーマ名を認識できないことが原因の場合は、既存のスキーマを使用してください。間違ったユーザー名による接続が原因の場合は、切断して正しいユーザー名で接続し直してください。

POL-5204 表が見つかりません

原因: SQL 文で無効な表名が参照されました。

処置: 表名をチェックして、SQL 文を再発行してください。

POL-5205 列が見つかりません

原因: SQL 文で無効な列名が参照されました。

処置: 列名をチェックして、SQL 文を再発行してください。

POL-5206 別名が無効です

原因: SELECT 文で、結果の列の 1 つに無効な別名が指定されていました。

処置: 別名は、単一語の正しいオブジェクト名とするか、二重引用符で囲む必要があります。

POL-5207 INSERT VALUES が列と一致しません

原因: INSERT...VALUES 文で、すべての列に十分な値が指定されていないか、指定された値が多すぎます。

処置: 表定義を参照して、デフォルトが定義されていないすべての列に値を指定してください。

POL-5208 ビュー列の数が定義と一致しません

原因: CREATE VIEW 文で指定されたビュー列の数が、ビューを定義している SELECT 文で指定された列の数と一致しません。

処置: CREATE VIEW 文で指定されたビュー列の数が、SELECT 文で指定された数と一致するようにしてください。

POL-5209 CHAR または VARCHAR 列のサイズが最大値を超えました

原因: CHAR または VARCHAR 列の最大長は 2048 バイトです。

処置: 列定義をチェックして、長さが 2048 バイトを超えないようにしてください。

POL-5210 精度値のエラーが発生しました

原因: 数値の最大精度は 38 桁です。

処置: NUMBER 列定義にエラーがないかチェックしてください。

POL-5211 スケール値のエラーが発生しました

原因: 数値列の最大スケールは、精度より小さくする必要があります。

処置: NUMBER 列定義を変更して、スケールが精度より小さくなるようにしてください。

POL-5212 データ型が列の型と一致しません

原因: リテラルまたは式のデータ型が、挿入先の列のデータ型と一致しません。

処置: TO_CHAR、TO_NUMBER、TO_DATE または CAST 関数を使用して、式を正しいデータ型に変換してから、データを列に挿入してください。

POL-5213 指定されたデータ型が比較可能ではありません

原因: リテラルまたは式のデータ型が、比較しようとしている列のデータ型と一致しません。

処置: TO_CHAR、TO_NUMBER、TO_DATE または CAST 関数を使用して式を正しいデータ型に変換してから、再度比較してください。

POL-5214 マーカー・データ型を判断できません

原因: パラメータのデータ型を構文から判断できませんでした。

処置: SQL 文に構文エラーがないかチェックしてください。

POL-5215 オペランドのデータ型が正しくありません

原因: 式で非互換のデータ型を混ぜて使用しています。たとえば、文字値を数式に加えようとしている場合などです。

処置: 式にエラーがないかチェックしてください。

POL-5216 間隔値のエラーです

原因: 間隔の計算の結果、無効な値となりました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターにご連絡ください。

POL-5217 間隔修飾子が指定されていません

原因: 間隔式が完全には修飾されていません。

処置: 間隔式の構文については、SQL-92 の仕様を参照してください。

POL-5218 この機能はサポートされていません

原因: Oracle Lite で解析可能な機能が認識されましたが、実行できません。

処置: ここではこの機能を使用しないでください。

POL-5219 このデータはキャストできません

原因: 入力データ型を、指定された出力データ型に変換できません。

処置: SQL 文の構文をチェックして、入力データ型を修正してください。

POL-5220 外部キーのエラーです

原因: 宣言内のエラーのため、Oracle Lite は外部キー参照を追加できませんでした。参照表が存在しないか、表に一意キーがないかのいずれかです。

処置: 参照表が存在しており、さらに一意キーを持っていることをチェックしてください。

POL-5221 表を更新できません

原因: 指定された表には更新できる列がありません。

処置: これはエラーではありません。

POL-5222 マーカー位置のエラーです

原因: これは異常な状態です。

処置: 「異常な状態」としてレポートしてください。

POL-5223 ここでは副問合せはサポートされません

原因: 一部の SQL 文では副問合せは許されていません。

処置: SQL 文を書き直して、副問合せを取り除いてください。

POL-5224 集計関数のエラーです

原因: GROUP BY は WHERE 句では許されません。また一部の列が GROUP BY 操作では無効です。

処置: SQL 文の GROUP BY 句をチェックして、文を再発行してください。

POL-5225 GROUP BY エラーです

原因: データベースが、GROUP BY SQL 文で構文エラーを検出しました。

処置: SQL 文のエラーをチェックして、再発行してください。

POL-5226 CASE 文のエラーです

原因: SQL 文に無効な CASE 構文が含まれています。

処置: 文をチェックしてやり直してください。

POL-5227 UNION 文のエラーです

原因: SQL 文に UNION または MINUS 演算子の無効な構文が含まれています。

処置: 文をチェックしてやり直してください。

POL-5228 構文エラーです

原因: SQL 文に構文エラーがあります。

処置: 文の綴りの間違いやカッコの不足などを調べて、再発行してください。文の種類ごとの正しい構文については、SQL オンライン・ヘルプを参照してください。

POL-5229 OUTER JOIN 文のエラーです

原因: SQL 文の外部結合に無効な構文が含まれています。

処置: 文をチェックしてやり直してください。

POL-5230 データベース・サイズが無効です

原因: CREATE DATABASE 文に、無効なデータベース・サイズ・パラメータが含まれています。

処置: パラメータにエラーがないかチェックして、SQL 文を再発行してください。有効なパラメータ値については、SQL オンライン・ヘルプを参照してください。

POL-5231 エクステンツ・サイズが無効です

原因: CREATE DATABASE 文に、無効なエクステンツ・サイズ・パラメータが含まれています。

処置: パラメータにエラーがないかチェックして、SQL 文を再発行してください。有効なパラメータ値については、SQL オンライン・ヘルプを参照してください。

POL-5232 データベース ID が範囲外です

原因: CREATE DATABASE 文に無効なデータベース ID が含まれています。

処置: パラメータにエラーがないかチェックして、SQL 文を再発行してください。有効なパラメータ値については、SQL オンライン・ヘルプを参照してください。

POL-5233 ここでは順序は許されません

原因: FROM リスト内で順序を参照しようとしたのですが、これは許されていません。順序は SELECT リスト内でのみ参照できます。

処置: 文の構文をチェックして、参照を修正し、やり直してください。

POL-5234 単一グループの GROUP BY 関数ではありません

原因: SELECT リストは、個別の列の式が GROUP BY 句に含まれていない限り、AVG、COUNT、MAX、MIN、SUM、STDDEV、VARIANCE などのグループ関数と、個別の列の式の両方を含むことはできません。

処置: SELECT リストからグループ関数または個別の列の式を削除するか、あるいは個別の列の式すべてをリストする GROUP BY 句を追加してください。

POL-5235 GROUP BY 式ではありません

原因: GROUP BY 句に、SELECT 句のすべての式は含まれていません。グループ関数に含まれていない SELECT 式は、GROUP BY 句にリストする必要があります。グループ関数は、AVG、COUNT、MAX、MIN、SUM、STDDEV および VARIANCE です。

処置: グループ関数の引数ではないすべての SELECT 式を GROUP BY 句に含めてください。

POL-5236 プロシージャの戻り型はサポートされていません

原因: SQL 文に、不明な Java プロシージャ型への参照が含まれています。

処置: ストアド・プロシージャは、SQL データ型を返す必要があります。プロシージャ定義をチェックしてください。

POL-5237 列が多すぎます (最大で 1000 までです)

原因: CREATE TABLE 文の列が多すぎます。

処置: 表内の列の数を減らしてください。

POL-5238 トリガー・アクションが無効です

原因: ON DELETE の次のキーワードが無効です。

処置: キーワードの綴りを CASCADE に修正してください。

POL-5239 テーブル削除のオプションが無効です

原因: 表やビューを削除する場合は、CASCADE か RESTRICT しか指定できません。

処置: DROP 文の構文を修正してください。

POL-5240 星印が使えるのは COUNT 関数だけです

原因: アスタリスクを引数として使用できるのは COUNT () 関数のみです。

処置: SQL 関数への引数を修正してください。

POL-5241 関数への引数の数が正しくありません

原因: SQL 関数を、正しい数の引数を指定せずに使用しました。

処置: 文の中のすべての SQL 関数の引数をチェックしてください。

POL-5242 ODBC 関数のエスケープ・シーケンスが見つかりません

原因: ODBC 関数名を、中カッコ {fn X} なしで使用しました。

処置: 中カッコ {fn X} を使用してください。

POL-5243 シーケンス・キーワードの綴りが間違っています

原因: CREATE SEQUENCE または ALTER SEQUENCE キーワードの綴りが間違っているか、無効なシーケンスです。

処置: キーワードの綴りを修正してください。

POL-5244 結合式の中で非結合条件が使用されています

原因: 外部結合条件で列または有効な比較演算子を指定していません。

処置: SQL 文を修正してください。

POL-5245 式は GROUP BY 列では許されません

原因: 問合せの GROUP BY 句に式が含まれています。許されているのは列名参照のみです。

処置: 問合せを変更するか、ビューを使用してください。

POL-5246 ユーザーが存在しません

原因: 無効なユーザー名でデータベースに接続しようとした。

処置: 正しいユーザー名を使用していることを確認してください。

POL-5247 複数の行が返されました

原因: 単一行の副問合せで複数の行が返されています。

処置: 副問合せで返される行が最大 1 行になるように、問合せを修正してください。

POL-5248 無効なゼロ長識別子です

原因: 識別子には、長さがゼロの文字列を取らないものがあります。

処置: 長さがゼロではない文字列を指定してください。

POL-5249 重複したプロシージャ / ファンクション名です

原因: CREATE PROCEDURE/FUNCTION 文で、同じ名前前のプロシージャ / ファンクションがすでに存在していることがわかりました。

処置: SQL 文でプロシージャ / ファンクションの名前が重複していないかチェックして、SQL 文を再発行してください。

POL-5250 プロシージャまたはファンクションが存在しません

原因: 存在しないプロシージャ / ファンクションを SQL 文が参照しました。

処置: CREATE PROCEDURE/FUNCTION を使用してプロシージャ / ファンクションを作成してから、SQL 文を再発行してください。

POL-5251 式のデータ型は対応する式と同一である必要があります

原因: 複数の式の対応する位置にあるデータ型が同一ではありません。文字、数値、日付を混在させることはできません。

処置: 式のデータ型をチェックしてください。CAST 変換はオプションの可能性あります。

POL-5252 表のカラム数が定義と一致していません

原因: CREATE TABLE 文で指定された表のカラム数が、その表を定義する SELECT 文で指定されたカラム数と一致していません。

処置: CREATE TABLE 文で指定した表のカラム数と、SELECT 文で指定したカラム数が一致するようにしてください。

POL-5253 NOT NULL 制約に違反しています

原因: NOT NULL 制約の列に、NULL 値を挿入しようとしてしました。

処置: 挿入する値をチェックするか、列の NOT NULL 制約を変更して NULL 値を許可するようにしてください。

POL-5254 一時ディレクトリ（またはファイル）の作成に失敗しました

原因: CREATE JAVA SOURCE AS 文で一時ディレクトリ（またはファイル）の作成に失敗しました。

処置: ディスク領域が使用可能か、一時ディレクトリのパスが有効かあるいはアクセス権が適当かをチェックしてください。

POL-5255 識別子が長すぎます

原因: ユーザー名識別子が 30 文字を超えています。

処置: 30 文字以下の識別子を使用してください。

POL-5256 GROUP BY エラーです

原因: GROUP BY 句で許されない型の列が見つかりました。

処置: 列の型にエラーがないかチェックしてから、再発行してください。

POL-5257 ROWID は使用できません

原因: GROUP BY 句または結合演算を含むか、問合せではない SQL 文を含む問合せから選択された行に対して ROWID は使用できません。

処置: 問合せを書き直すか、行 ID 値を使用しないようにしてください。

POL-5258 選択リストが空です

原因: 選択リストが空か、選択リスト内の列がすべて非表示列です。

処置: 問合せを書き直してください。

POL-5259 NULL に変更しようとした列は変更できません

原因: 変更しようとした列を NULL に設定できません。

処置: アクションは必要ありません。変更しようとした列には主キー制約がある可能性があります。

POL-5260 この CREATE TABLE 文では列データ型は指定できません

原因: CREATE TABLE 文では、副問合せから列データ型を指定できません。

処置: 列データ型を削除してください。

POL-5261 ここではビューは指定できません

原因: ここではビューを使用できません。

処置: ビューを使用しないでください。

POL-5262 開始順序番号は変更できません

原因: ALTER SEQUENCE 文では START WITH を指定できません。

処置: START WITH を指定しないでください。

POL-5263 MINVALUE/NOMINVALUE の指定が重複または混在しています

原因: MINVALUE/NOMINVALUE の指定が重複または混在しています。

処置: ALTER SEQUENCE 構文を再確認してください。

POL-5264 MAXVALUE/NOMAXVALUE の指定が重複または混在しています

原因: MAXVALUE/NOMAXVALUE の指定が重複または混在しています。

処置: ALTER SEQUENCE 構文を再確認してください。

POL-5265 既存データは変更されたデータ型に格納できません

原因: 既存データを変更したデータ型に格納できないので、列の精度を下げることはできません。

処置: ALTER TABLE MODIFY 文を確認してください。

POL-5266 ビューの再コンパイルが必要かもしくは実表が見つからないかのいずれかです

原因: ビューが、有効な実表を使用して作成されていません。

処置: 実表が作成されていることを確認し、ALTER VIEW *view_name* COMPILE コマンドを使用してビューを再コンパイルしてください。

POL-5267 問合せの実行時間の表示は前回実行時に発生したエラーのため削除されました

原因: 前回実行時に問合せでエラーが発生しました。実行時間の表示が存在しません。

処置: 問合せを再コンパイルして再実行してください。

POL-5269 The MINVALUE cannot be made to exceed the current value

原因: ALTER SEQUENCE 文で指定された MINVALUE が現在の値を超えています。

処置: MINVALUE を現在の値より小さくなるように変更してください。

POL-5270 The MAXVALUE cannot be made to be less than the current value

原因: ALTER SEQUENCE 文で指定された MAXVALUE が現在の値より小さくなっています。

処置: MAXVALUE を現在の値より小さくすることはできません。

1.8 POL 6000 ～ 6100 ODBC ドライバ・メッセージ

この範囲のエラーは、ODBC (Open Database Connectivity) ドライバによって検出されます。エラー・コードは、ODBC 標準によって定義される SQL 状態にもなるものです。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。ソフトウェアで他のエラー・コードをレポートすると、ODBC ドライバがレポートしたエラーを説明するのに役立つ場合があります。トラブル・レポートを作成する場合は、表示されたエラー番号をすべて書きとめてください。

POL-6001 一般的警告です

原因: ドライバ固有の情報メッセージです。

処置: 詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6002 切断エラーです

原因: 切断は成功しましたが、切断中にデータベースがエラーを検出しました。ODBC ドライバが追加の情報メッセージを返す可能性があります。

処置: データベースを再オープンして、データが失われていないことを確認してください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6003 データが切り捨てられました

原因: バッファが文字列全体を返すために必要な大きさを持っていないため、データベースからクライアントへのコピー中にデータが失われました。

処置: 値全体を保持するのに十分な大きさのバッファを用意してください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6004 権限を取り消せません

原因: REVOKE PRIVILEGE コマンドが失敗しました。

処置: Oracle Lite は権限を規定しないため、アクションは必要ありません。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6005 接続文字列属性が無効です

原因: 指定された ODBC 接続文字列に無効なキーワードが含まれています。

処置: 接続文字列の構文をチェックし、必要に応じて修正して再度接続を試みてください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6006 行にエラーがあります

原因: 1 つ以上の行でエラーが発生しました。

処置: ODBC ドライバが追加の情報メッセージを返す可能性があります。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6007 オプション値が変更されました

原因: 引数に指定された値は ODBC ドライバでサポートされていないので、近い値に置き換えられました。

処置: ODBC ドライバが追加の情報メッセージを返す可能性があります。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6008 行は更新または削除されませんでした

原因: UPDATE または DELETE 文に対する基準に一致する行はありませんでした。

処置: 行を更新または削除する場合は、エラーがないかチェックして SQL 文を再発行してください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6009 1 つ以上の行が更新または削除されました

原因: 位置付け UPDATE または DELETE 文が文または引数に含まれており、1 つ以上の行が更新または削除されました。

処置: ODBC ドライバが追加の情報メッセージを返す可能性があります。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6010 パラメータの数に誤りがあります

原因: SQLBindParameter に指定されたパラメータの数が、SQL 文のパラメータ数と一致しません。

処置: 構文エラーをチェックしてから、SQL 文を再発行してください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6011 制約のあるデータ型属性違反です

原因: データ値が指定されたデータ型に変換できませんでした。Oracle Lite では、LONG 列に挿入しようとしてもこの結果が生じます。

処置: 構文エラーがないかチェックして、文を再発行してください。LONG 列にデータを挿入するには SQLPutData() を使用してください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6012 データ・ソースに接続できません

原因: ドライバはデータ・ソースとの接続を確立できませんでした。

処置: 指定されたユーザー名が有効であるか確認してください。ユーザー名を接続時に使用するには、各 Oracle Lite データベース・ファイルでそれぞれのユーザー名に対して CREATE SCHEMA を行う必要があります。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6013 接続が使用中です

原因: 指定された接続はすでにオープンされています。

処置: 既存の接続を使用するか、クローズしてください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6014 接続がオープンされていません

原因: プログラムが、オープンしていないデータベース接続に対してクローズまたはアクセスしようとしてしました。

処置: いったん終了し、接続し直してください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6015 データ・ソースが接続確立を拒否しました

原因: このエラーの原因は実装固有のもので、このエラーは、同じ DBFileID を持つ別のデータベース・ファイルがすでにオープンしているときに、あるデータベース・ファイルをオープンしようとするると発生します。

処置: 既存の接続を使用するか、クローズしてください。他の Oracle Lite エラー・コードを探して、詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6016 トランザクション中の接続に失敗しました

原因: 関数の実行中に接続が失敗したため、その前に要求された COMMIT または ROLLBACK 文が完了したか判断できませんでした。

処置: 更新したデータをチェックして、変更が期待どおりに行われているか確認してください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6017 通信リンクに障害が発生しました

原因: リモート・データベースにアクセスできません。

処置: リモート・データベースが実行中であり、通信ネットワークが稼働しており、適切なデータベース・リンクが存在していることを確認してから、操作を再度実行してください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6018 挿入値リストが列のリストと一致しません

原因: すべての列に対応する値が INSERT 文に指定されていないか、指定されている値が多すぎます。

処置: 表定義をチェックして、デフォルトが定義されていないすべての列に対して値を指定します。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6019 導出表の値の数が、列の数と一致しません

原因: CREATE VIEW 文に、すべての列に対応する値が指定されていないか、指定されている値が多すぎます。

処置: 表定義をチェックして、デフォルトが定義されていないすべての列に対して値を指定します。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6020 文字列の右側が切り捨てられました

原因: 文字列に十分なメモリーが割り当てられなかったため、切り捨てられました。

処置: 文字列が切り捨てられても問題ない場合は、これはエラーではありません。問題がある場合は、エラーをレポートしたルーチンをより大きな文字列バッファを使用してコールしてください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6021 数値が範囲外です

原因: 数値が変換できなかったか、データ型に対して大きすぎました。

処置: より大きなデータ型を宣言するか、より大きなバッファを割り当ててください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6022 代入エラーです

原因: リテラルまたは式のデータ型が、挿入先の列のデータ型と一致しません。

処置: TO_CHAR、TO_NUMBER、TO_DATE または CAST 関数を使用して、式を正しいデータ型に変換してください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6023 DATE、TIME または TIMESTAMP フィールドのオーバーフローです

原因: SQLState に無効な DATE、TIME または TIMESTAMP の値が含まれています。

処置: 入力値にエラーがないかチェックし、文を再発行してください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6024 ゼロによる除算が行われました

原因: SQL 文に、ゼロによる除算を引き起こす算術式が含まれています。

処置: 構文エラーをチェックしてから、SQL 文を再発行してください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6025 文字列データの長さが一致しません

原因: 文字列データに、長さバッファに指定されたものより短いデータが含まれていました。

処置: 文字列データが期待している長さより短くてよい場合は、これはエラーではありません。エラーを起こした SQL 入力文字列をチェックしてください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6026 整合性制約に違反しています

原因: 非 NULL 列に対する SQL 文のパラメータまたはリテラルの値が NULL であったか、一意の値のみに制約されている列に対して提供された値が重複していたか、あるいはその他の整合性制約に違反がありました。

処置: 入力文字列にエラーがないかチェックして、やり直してください。外部キー制約が存在する場合は、参照表に一致する値が含まれていることを確認してください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6027 カーソル状態が無効です

原因: 位置付け UPDATE または DELETE が SQL 文に含まれており、カーソルが結果セットの先頭より前か、最後より後に置かれました。

処置: カーソルをクローズして、SQL 文を再発行してください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6028 トランザクション状態が無効です

原因: トランザクションがまだアクティブなうちに、プログラムが切断しようとしてしました。

処置: 終了していないトランザクションを COMMIT または ROLLBACK してから切断を再発行します。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6029 許可指定が無効です

原因: 接続文字列に指定されたユーザー名またはパスワードが、指定されたデータソースで定義される制限に違反しました。

処置: ユーザー名およびパスワードをチェックしてから、接続をやり直してください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6030 カーソル名が無効です

原因: 位置付け DELETE または UPDATE が SQL 文に含まれており、データベースはアプリケーションで指定された名前のカーソルを見つけられませんでした。

処置: カーソルがオープンされており、アプリケーションが有効な名前を持っていることをチェックしてください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6031 構文エラーまたはアクセス違反がありました

原因: プログラムがデータベースのシステム表にアクセスしようとしたか、SQL 文にエラーがありました。

処置: 構文エラーをチェックしてから、SQL 文を再発行してください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6032 カーソル名が重複しています

原因: 指定されたカーソル名はすでに存在しています。

処置: カーソル名をチェックして、SQL 文を再発行してください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6033 直列化に失敗しました

原因: SQL 文を処理しているトランザクションが、デッドロックを避けるために終了しました。

処置: 詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6034 構文エラーまたはアクセス違反がありました

原因: 指定された SQL 文を実行する権限をユーザーが持っていなかったか、あるいは要求された操作を実行するのに必要な行をドライバがロックできませんでした。

処置: SQL 文にエラーがないかチェックしてください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6035 操作が異常終了しました

原因: データ・ソースが取消し要求を処理できませんでした。

処置: 詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6036 ドライバはこの機能をサポートしていません

原因: ドライバがサポートしていない関数を実行しようとしてしました。

処置: 詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6037 データ・ソース名が見つからず、デフォルト・ドライバも指定されていません

原因: 指定されたデータ・ソース名が ODBC.INI ファイルまたはレジストリに見つからず、デフォルトのドライバも指定されていないため、あるいは ODBC.INI ファイルが見つからないため、Driver Manager はシステムのデフォルトのデータベースを使用します。

処置: デフォルトのデータベースを使用しない場合は、データ・ソース名をチェックして接続文を再発行してください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6038 指定されたドライバをロードできません

原因: ODBC.INI ファイルまたはレジストリ内のデータ・ソース仕様部にリストされたドライバ、あるいは DRIVER キーワードによって指定されたドライバが見つからなかったか、他の理由によりロードできませんでした。

処置: 詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6039 ドライバの SQLAllocEnv() が失敗しました

原因: SQLAllocEnv() は環境ハンドル用にメモリーを割り当てるため、他のどの ODBC 関数よりも前にコールする必要があります。SQL 文の実行中に Driver Manager がドライバの SQLAllocEnv() をコールし、ドライバがエラーを返しました。

処置: 詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6040 ドライバの SQLAllocConnect が失敗しました

原因: Driver Manager が SQLAllocConnect() をコールしたときにドライバがエラーを返したため、接続ハンドル用にメモリーが割り当てられていません。

処置: 詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6041 ドライバの SQLSetConnectOption が失敗しました

原因: Driver Manager が接続オプションを設定するドライバの SQLSetConnectOption() をコールし、ドライバがエラーを返しました。

処置: 詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6042 データ・ソースまたはドライバが指定されていません - ダイアログは禁止されています

原因: 接続文字列にデータ・ソースまたはドライバが指定されていないため、接続を確立できませんでした。Driver Manager は、ダイアログ・ボックスを表示してユーザーにを入力を求めるかわりに、アプリケーションで指定された接続文字列のみをコピーしようとしました。

処置: 詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6043 ダイアログが失敗しました

原因: Driver Manager が SQL データ・ソース・ダイアログ・ボックスを表示しようとして失敗したか、ログイン・ダイアログ・ボックスが失敗しました。

処置: 詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6044 変換 DLL をロードできません

原因: 指定された変換ファイルが存在しません。

処置: 必ず正しい変換ファイルを使用してください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6045 指定されたデータ・ソース名が長すぎます

原因: DSN キーワードに対する属性値が、指定可能な最大長を超えました。

処置: 短いデータ・ソース名を指定するか、入力文字列にエラーがないかチェックしてください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6046 指定されたドライバ名が長すぎます

原因: DRIVER キーワードの属性値が 255 文字を超えました。

処置: 短い値を指定するか、入力文字列にエラーがないかチェックしてください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6047 DRIVER キーワードに構文エラーがあります

原因: DRIVER キーワードのキーワードと値の対に構文エラーが含まれています。

処置: 指定したキーワードをチェックして、詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6048 トレース・ファイルにエラーがあります

原因: ODBC Spy または ODBC Administrator を使用してトレースを使用可能にしていますが、指定したファイルに Driver Manager が書き込めませんでした。

処置: トレース・ファイルへのパス名を正しく設定してください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6049 実表またはビューがすでに存在します

原因: CREATE TABLE または CREATE VIEW 文を実行したときに、同じ名前の表があることをデータベースが検出しました。

処置: 新しい表に別の名前を選択して SQL 文を再度実行するか、既存の表を削除してください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6050 実表またはビューが見つかりません

原因: データベースが見つけれない表またはビューを SQL 文が参照しています。

処置: SQL 文のエラーをチェックし、必要に応じて表名またはビューを変更してください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6051 索引はすでに存在します

原因: すでに存在する索引を CREATE INDEX 文で作成しようとした。

処置: このエラーを無視して既存の索引を使用することも、あるいは既存の索引を削除して再度作成することもできます。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6052 索引が見つかりません

原因: 存在しない索引を DROP INDEX 文で削除しようとした。

処置: 文にエラーがないかチェックし、詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6053 列はすでに存在します

原因: すでに表内に存在する列の名前を ALTER TABLE 文で追加しようとした。すべての列名は表内で一意である必要があります。

処置: 新しい列に一意の名前を指定して、文を再実行してください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6054 列が見つかりません

原因: SQL 文に、少なくとも 1 つの存在しない列名への参照が含まれています。

処置: SQL 文にエラーがないかチェックし、詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6055 列にデフォルトがありません

原因: NOT NULL 制約を持ち、かつデフォルト値を持たないそれぞれの列に対して INSERT...VALUES 文で値を指定していないか、指定した値が多すぎます。

処置: 表定義をチェックして、デフォルトが定義されていないすべての列に対して値を指定します。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6056 一般エラーです

原因: ODBC のこの実装でのエラーです。

処置: 詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6057 メモリー割当てに失敗しました

原因: データベースのヒープ・メモリーまたはオブジェクト・キャッシュ・メモリーが不足しています。

処置: アプリケーションを再起動してください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6058 列番号が無効です

原因: CREATE VIEW 文に指定された列名の数、SELECT 句でリストされている列数と対応していません。CREATE VIEW 文で列名が指定されている場合は、SELECT 句内の各列または式に対してただ 1 つの名前を指定する必要があります。

処置: SELECT 句内の各列に対して 1 つのビュー列名を指定します。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6059 プログラムの型が範囲外です

原因: 引数で指定された値は、有効な SQL データ型ではありません。

処置: コール側プログラムにエラーがないかチェックしてください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6060 SQL データ型が範囲外です

原因: SQL データ型に対して有効な値のいずれとも一致しない値を割り当てようとした。

処置: 割当てをチェックしてやり直してください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6061 操作が取り消されました

原因: 関数が実行完了前に取り消されました。

処置: 詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6062 引数の値が無効です

原因: 失敗したコールには、無効な値を持つ引数が含まれています。

処置: 構文エラーがないかチェックして、有効な引数の値を用いて文を再発行してください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6063 関数順序にエラーがあります

原因: SQL 文に対して非同期に実行する関数がコールされましたが、コールされたときにこの関数はまだ実行中でした。

処置: 詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6064 ここでは操作が無効です

原因: このエラーは関数固有のものです。

処置: 詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6065 無効なトランザクション・コードが指定されました

原因: 指定されたトランザクション・コードは、既存の有効なトランザクションに対応しません。COMMIT または ROLLBACK 文が必要です。

処置: アプリケーションが有効なトランザクション・コードを使用していることをチェックしてください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6066 カーソル名が使用可能ではありません

原因: 文に対してオープンされているカーソルがありません。

処置: 詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6067 文字列またはバッファ長が無効です

原因: 割り当てられたバッファに対して結果の文字列が大きすぎるか、値が有効ではありません。

処置: SQL 文にエラーがないかチェックするか、バッファ・サイズを大きくします。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6068 記述子の型が範囲外です

原因: この記述子の型は、ドライバでサポートされているバージョンの ODBC では無効です。

処置: 記述子の型をチェックして、やり直してください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6069 演算の型が範囲外です

原因: 指定された値は、このドライバでサポートされているバージョンの ODBC では無効です。

処置: 値をチェックしてやり直してください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6070 パラメータ数が無効です

原因: 指定された引数の数が、パラメータの数と一致しません。

処置: SQL 文に構文エラーがないかチェックしてください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6071 スケール値が無効です

原因: 引数に指定された値が、指定されたデータ型の列に対するデータ・ソースでサポートされる値の範囲を超えています。

処置: 値をチェックして、詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6072 関数の型が範囲外です

原因: 無効な ODBC 関数が指定されました。

処置: 詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6073 情報の型が範囲外です

原因: 無効な ODBC 情報の型が指定されました。

処置: 値をチェックして、詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6074 列の型が範囲外です

原因: 指定された列に無効な型を持つ値を挿入しようとしてしました。

処置: 列の型をチェックして、やり直してください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6075 有効範囲の型が範囲外です

原因: 無効な有効範囲の型が指定されました。

処置: 詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6076 NULL 値可能な型が範囲外です

原因: NULL 値の列を返すかどうかの判断に対して無効な値が指定されました。

処置: 詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6077 一意オプションの型が範囲外です

原因: 無効な索引の型が指定されました。

処置: 詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6078 正確度の型が範囲外です

原因: 結果を返すかどうかの判断に対して無効な値が指定されました。

処置: 詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6079 方向の型が範囲外です

原因: Driver Manager がリスト内の次のドライバまたはデータ・ソースの名前をフェッチするかどうか、あるいは検索をリストの先頭から開始するかどうかの判断に対して無効な値が指定されました。

処置: 詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6080 精度値が無効です

原因: 列の値の精度が最大値を超えたか、無効です。これは異常な状態です。

処置: 「異常な状態」としてレポートしてください。

POL-6081 パラメータの型が無効です

原因: 無効なコマンドライン・パラメータが指定されました。

処置: 有効なパラメータの集合についてオンライン・ヘルプをチェックし、SQL 文を再発行してください。詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6082 フェッチの型が範囲外です

原因: 結果セット内を移動する方法の判断に対して無効な値が指定されました。

処置: 詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6083 行の値が範囲外です

原因: 結果セット内を移動する方法の判断に対して無効な値が指定されました。

処置: 詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6084 同時実行性オプションが範囲外です

原因: ロック・レベルの判断に対して無効な値が指定されました。

処置: 詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6085 カーソルの位置が無効です

原因: カーソルの位置に対して、削除されているか、エラーのある行が指定されました。

処置: 詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6086 ドライバ完了が無効です

原因: ドライバまたは Driver Manager が追加の接続情報についてプロンプトを表示する必要があるかどうかの判断に対して無効な値が指定されました。

処置: 詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6087 ブックマークの値が無効です

原因: ブックマーク付きの行集合の取出しに対して無効な値が指定されました。

処置: 詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6088 ドライバはこの操作を行うことはできません

原因: 原因は ODBC 関数固有のものです。

処置: 詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6089 タイムアウトが発生しました

原因: データ・ソースが結果セットを返す前にタイムアウト時間が過ぎました。

処置: 詳細は『Microsoft ODBC プログラマーズ リファレンス & SDK ガイド』を参照してください。

POL-6090 実行用のデータがありません - 値を処理できません。

原因: これは異常な状態です。

処置: 「[異常な状態](#)」としてレポートしてください。

POL-6100 トランザクションはデッドロックが原因でロールバックされました

原因: アプリケーションでデッドロックが発生しました。

処置: トランザクションは自動的にロールバックされました。必要であればデータを再度サブミットしてください。

1.9 POL 8000 ~ 8090 Java ストアド・プロシージャ / トリガー・メッセージ

ストアド・プロシージャまたはトリガーのアタッチ、デタッチまたは実行時に検出されたエラーは、通常、JDBC、ODBC または SQL レイヤーからレポートされます。Java アクセス・クラスからコマンドを実行しているときにエラーが発生した場合は、一般的な POLException エラーが表示され、Java Virtual Machine (Java VM) からレポートされません。

POL-8000 Java 仮想マシンの起動に失敗しました

原因: 環境変数 PATH に javai.dll への参照が含まれていない可能性があります。

処置: PATH 変数に `JDK_HOME¥bin` ディレクトリを含めてください。ここで、`JDK_HOME` は Java 開発環境のルート・ディレクトリです。

POL-8001 Java システム・クラスが見つかりません

原因: 環境変数 CLASSPATH が正しく設定されていない可能性があります。

処置: 環境変数 CLASSPATH に `JDK_HOME¥lib¥classes.zip` を含めてください。

POL-8002 getMethod() のコールで例外が発生しました

原因: Java システム・クラスが、互換性のないバージョンです。

処置: Javasoft の JDK 1.1.6 (またはそれ以降)、またはこれと 100% 互換の Java Virtual Machine (Java VM) があることを確認してください。

POL-8003 メソッド ID が NULL です

原因: Oracle Lite Java クラス・ローダーのインスタンスを作成できませんでした。

処置: CLASSPATH にファイル jsp.jar への参照が必ず含まれるようにしてください。

POL-8004 Java パッケージが見つかりません

原因: 完全修飾された Java クラス名で記述されたパッケージ名が存在しません。

処置: クラス名をチェックして、必要に応じて修正してください。

POL-8005 指定の名前はパッケージ名ではありません

原因: 完全修飾された Java クラス名で記述されたパッケージ名は、パッケージの名前ではありません。

処置: クラス名をチェックして、必要に応じて修正してください。

POL-8006 パッケージ作成でエラーが発生しました

原因: 内部エラーです。

処置: 製品が正しくインストールされていてもエラーが引き続き発生する場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターにご連絡ください。

POL-8007 パッケージ検索でエラーが発生しました

原因: Oracle Lite クラス・ローダーがパッケージ名を検索できません。

処置: 完全修飾クラス名のパッケージ名をチェックしてください。

POL-8008 BLOB の命名でエラーが発生しました

原因: 同じ名前の BLOB がすでに存在します。

処置: BLOB に他の名前を選択してください。

POL-8009 クラスはすでに存在しています

原因: 表にアタッチする Java クラスに対するソースまたはクラス・パスが指定されましたが、同じ名前異なる内容の Java クラスが Oracle Lite データベース内にすでに存在しています。

処置: クラスの名前を変えてください。

POL-8010 指定の名前のクラスが見つかりません

原因: Oracle Lite Java クラス・ローダーで、アタッチ文に指定された名前のクラスが見つかりません。

処置: 適切なディレクトリを検索できるように、CLASSPATH に正しい名前を指定するか、変更してください。

POL-8011 クラス ID が NULL です

原因: jsp.jar が CLASSPATH にないか、Oracle Lite クラス参照に NULL が使用されています。

処置: JAC または C カーネル・インタフェース (OKAPI) を使用している場合は、API ファンクション・コールに NULL でないオブジェクト参照を指定してください。

POL-8012 指定のクラス名はパッケージ名です

原因: 同じ名前のパッケージがすでに存在します。

処置: クラスに他の名前を選択してください。

POL-8013 クラス BLOB の検索でエラーが発生しました

原因: 指定されたクラス・オブジェクトを検索できませんでした。

処置: クラスが存在していることを確認してください。

POL-8014 クラス BLOB の作成でエラーが発生しました

原因: クラスに BLOB 属性を作成できませんでした。

処置: エラー・スタックで、他のエラーを調べてください。

POL-8015 BLOB サイズ検索でエラーが発生しました

原因: BLOB オブジェクトのサイズを取得できませんでした。

処置: BLOB オブジェクトが存在しており、指定どおりのサイズであることをチェックしてください。

POL-8016 BLOB 値の読み込みでエラーが発生しました

原因: クラスのロード時にクラス定義に対応付けられた BLOB を読み込む際のエラーです。

処置: 内部エラーです。製品が正しくインストールされていてもエラーが引き続き発生する場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターにご連絡ください。

POL-8017 クラス・ファイルの読み込みでエラーが発生しました

原因: クラスのロード時のクラス定義を読み込む際のエラーです。

処置: クラス・ファイルが置かれているディレクトリを CLASSPATH 環境に挿入して、アプリケーションを再起動してください。

POL-8018 BLOB 値の設定でエラーが発生しました

原因: BLOB の値を設定できませんでした。

処置: 値が正しいことと、BLOB データが読み込み可能であることを確認してください。

POL-8019 グループの作成でエラーが発生しました

原因: データベースで Java クラスのグループを作成できません。

処置: 内部エラーです。製品が正しくインストールされていてもエラーが引き続き発生する場合は、[オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

POL-8020 グループの検索でエラーが発生しました

原因: データベースで Java クラスのグループを検出できません。

処置: Oracle Lite Designer を使用して、Java クラスのグループが存在することを確認してください。

POL-8021 環境の初期化でエラーが発生しました

原因: これは異常な状態です。

処置: 「[異常な状態](#)」としてレポートしてください。

POL-8022 環境の終了でエラーが発生しました

原因: これは異常な状態です。

処置: 「[異常な状態](#)」としてレポートしてください。

POL-8023 データベース作成でエラーが発生しました

原因: これは異常な状態です。

処置: 「[異常な状態](#)」としてレポートしてください。

POL-8024 データベースが初期化されていません

原因: これは異常な状態です。

処置: 「[異常な状態](#)」としてレポートしてください。

POL-8025 クラスの定義で例外が発生しました

原因: クラスを定義するとき、または Java クラスを Oracle Lite クラスにアタッチするときに発生した各種エラーが原因となっている可能性があります。

処置: 詳細は、[コール・パラメータとエラー・スタック](#)を調べてください。

POL-8026 グローバル参照の作成または削除に失敗しました

原因: Java オブジェクト参照が壊れています。

処置: これは内部エラーです。 [オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

POL-8027 Java クラスはすでに存在しています

原因: 同じ名前の Java クラスがすでに存在します。

処置: クラスに他の名前を選択してください。

POL-8028 Java メソッドのコールでエラーが発生しました

原因: ほとんどの場合、Java と Oracle Lite のデータ型間における変換時の問題を指しています。

処置: コール・パラメータをチェックしてください。

POL-8029 指定された引数の数がメソッドの引数の数と異なります

原因: 指定された引数の数が、メソッドに指定されている引数の数と一致しません。

処置: 構文エラーがないかチェックして、文を再発行してください。

POL-8030 JNI シグネチャが違います。データベースが破損している可能性があります!

原因: 内部エラーです。データベースに記録されている Java メソッドの署名が壊れています。

処置: 製品が正しくインストールされていてもエラーが引き続き発生する場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターにご連絡ください。

POL-8031 Java プリミティブ型の仮引数への実引数として NULL 値は使用できません

原因: Java ストアド・プロシージャの Java 基本タイプの仮引数用の実際の引数として、NULL 値を渡そうとしました。

処置: Java プロシージャを起動する前に、これらの列を NULL 以外の値で初期化してください。

POL-8032 引数値が違います

原因: 失敗したコールには、無効な値を持つ引数が含まれています。

処置: 構文エラーがないかチェックして、有効な引数の値を用いて文を再発行してください。

POL-8033 インスタンス・メソッドにオブジェクトが指定されていません

原因: メソッドを操作するためのインスタンスを指定せずに、メソッドが起動されました。

処置: メソッドにオブジェクトを指定してください。

POL-8034 この機能はまだサポートされていません

原因: Oracle Lite がまだサポートしていない機能または関数を使用しようとしてしました。

処置: 文を修正して、サポートされていない機能または関数へのコールを削除してください。

POL-8035 指定された属性またはメソッドがありません

原因: 指定されたメソッドまたは属性が見つかりませんでした。

処置: 指定されたメソッドまたは属性が存在しており、正しいクラスにアタッチされていることをチェックしてください。

POL-8036 結果バッファが小さすぎます

原因: Java ストアド・プロシージャからの戻り値が長すぎて、割り当てられた結果バッファに収まりません。

処置: バッファ・サイズを大きくしてください。

POL-8037 トリガー用メソッドの引数の数が引数名の数と一致しません

原因: メソッドをコールするときに指定する引数名の数は、メソッドを宣言したときに定義された引数名の数と同じにしてください。

処置: コールで指定した引数の数を修正してください。

POL-8038 クラス本体を読み込むためのファイルのオープンでエラーが発生しました

原因: クラス・ファイルを読み込もうとしたときに、システムがエラーを検出しました。

処置: ファイル名、クラス・パスおよびその他のファイル操作に影響するものをチェックしてください。

POL-8039 ROWID (OID) と ROW (STATE) は BEFORE-INSERT (BEFORE-CREATE) あるいは AFTER-DELETE トリガーでは使用できません

原因: 行は、挿入前または削除後には存在しないため、ROWID を挿入前または削除後のトリガーに使用することは禁止されています。

処置: このようなトリガーには、ROWID を使用しないでください。

POL-8040 AFTER-INSERT (AFTER-CREATE)、AFTER-UPDATE あるいはその他の DELETE トリガーでは新規列 (属性) 値を使用できません

原因: AFTER-INSERT、AFTER-UPDATE または DELETE トリガーに新規列の値が使用されました。

処置: 新しい値を Java ストアド・プロシージャに渡す場合は、before トリガーを使用することを考慮してください。

POL-8041 AFTER-DELETE トリガーでは古い列 (属性) 値を使用できません

原因: AFTER-DELETE トリガーには、古い値も新しい値もありません。

処置: 属性を使用する必要がある場合は、BEFORE-DELETE トリガーを使用してください。

POL-8042 引数名に NULL 文字列は使用できません

原因: プログラムでトリガーを作成して正の argcount を指定しましたが、列 (属性) の名前が NULL でした。

処置: コール側プログラムのパラメータをチェックしてください。

POL-8043 空の接続スタックに POP が試みられました

原因：これは異常な状態です。

処置：「**異常な状態**」としてレポートしてください。

POL-8044 満杯の接続スタックに PUSH が試みられました

原因：これは異常な状態です。

処置：「**異常な状態**」としてレポートしてください。

POL-8045 空の接続スタックに TOP_CONN が試みられました

原因：これは異常な状態です。

処置：「**異常な状態**」としてレポートしてください。

POL-8046 削除されているトリガーの属性が存在しません

原因：無効な属性名に対する参照がありました。

処置：属性名をチェックして、トリガーを再度削除してください。

POL-8047 JAVA ソース・ファイルのパスが存在しません

原因：無効なパス名に対する参照がありました。

処置：パス名をチェックしてやり直してください。

POL-8048 JAVA ソース・ファイルへのアクセスが拒否されました

原因：システムにより、必要な Java ソース・ファイルへのアクセスが拒否されました。

処置：必須ファイルのアクセス制御を修正してください。

POL-8049 okCreateTrigger() 関数への引数が一致していません

原因：トリガーの作成時に、プログラムが無効なトリガー・タイプを指定しました。

処置：コール側プログラムで、トリガー・タイプ・パラメータを修正してください。

POL-8050 属性の型が無効です

原因：属性のドメインを既知の型にマップできませんでした。

処置：既知のデータ型で属性ドメインを定義してください。

POL-8051 指定された更新属性はそのクラスでは無効です

原因：更新トリガーに指定された更新属性が無効であるか、指定されていません。

処置：コール側プログラムにエラーがないかチェックして、足りない属性を指定してください。

POL-8052 COMMIT および ROLLBACK 文は Java ストアド・プロシージャでは使用できません

原因: Java ストアド・プロシージャに COMMIT および ROLLBACK 文への参照がありました。

処置: COMMIT および ROLLBACK への参照を削除して、文を再発行してください。

POL-8053 指定のコンストラクタ引数と一致するコンストラクタが見つかりません

原因: 指定されたコンストラクタ引数と一致する Java コンストラクタが見つかりません。

処置: 対応する ALTER TABLE 文をチェックして、コンストラクタの仮引数の順序がコンストラクタの副句内の列の順序と一致していることを確認してください。

POL-8054 トリガーからは void が返されなければなりません

原因: トリガー・メソッドは値を返すことができません。

処置: メソッドの宣言にエラーがないかチェックしてください。

POL-8055 Java クラスがすでに表またはクラスにアタッチされています

原因: 指定された Java クラスは、すでに表またはクラスにアタッチされています。

処置: 名前をチェックしてやり直してください。

POL-8056 システム・クラスは削除できません

原因: システム・クラスを削除しようとしてしました。

処置: クラス名をチェックしてやり直してください。システム・クラスを削除しないでください。

POL-8057 Java メソッドから範囲を超える長い値が返されました

原因: Java メソッドが、Oracle Lite で受け入れ可能な長さの値の範囲を超えるような長い値を返しました。

処置: コードのエラーをチェックして、返される値がすべて有効な範囲に入っていることを確認してください。

POL-8058 単一コールでは行および文のトリガーが作成されません

原因: 行と文のトリガーは、okCreate トリガーへの単一のコールまたは単一の SQL 文では作成できません。

処置: コールにエラーがないかチェックして、やり直してください。

POL-8059 トリガー・パラメータが見つかりません

原因: okCreate トリガーへのコールで、作成するトリガーの種類の指定に失敗しました。

処置: コールにエラーがないかチェックして、やり直してください。

POL-8060 文レベルのトリガーには引数は使用できません

原因: 文レベルのトリガーのメソッドに対して引数を指定しました。

処置: 引数は使用しないでください。

POL-8061 トリガーが見つかりません

原因: 指定されたトリガーが見つかりませんでした。

処置: コード内のトリガー名をチェックしてください。

POL-8062 その表にトリガーは存在しません

原因: 存在しないトリガーをプログラムで削除しようとした。

処置: コード内のトリガー名をチェックしてください。

POL-8063 BEFORE-UPDATE あるいは AFTER-UPDATE トリガーで更新属性が指定されていません

原因: 更新属性が必要なトリガーに、この属性が指定されていません。

処置: 必要なパラメータを指定して、やり直してください。

POL-8064 トリガー・シグネチャが実引数と一致しません

原因: プロシージャの引数のデータ型とトリガーで指定された値の互換性がありません。

処置: プロシージャの引数またはトリガーで指定する値を修正してください。

POL-8065 文レベル・トリガーでは oracle.pol.jac.POLconnection と java.sql.Connection のみ使用できます

原因: oracle.pol.jac.POLconnection と java.sql.Connection 以外の引数がプロシージャで要求される文レベルのトリガーを作成しようとした。

処置: 引数をとらないプロシージャを使用してください。

POL-8066 BEFORE-CREATE (BEFORE-INSERT) および AFTER-DELETE トリガー、または文レベルの任意のトリガーあるいは異なるクラスではインスタンス・メソッドは使用できません

原因: 行レベルのストアド・プロシージャを使用する挿入前または削除後のトリガーを作成しようとした。

処置: 文レベルのストアド・プロシージャを使用してください。

POL-8077 1つの文に複数の更新トリガーを作成するとき引数として属性の値を指定できません

原因:

処置:

POL-8078 UPDATE トリガー・メソッドの引数は作成されたトリガーの属性にしかありません

原因:

処置:

POL-8079 マルチバイト文字列を UNICODE 文字列に変換する時にエラーが発生しました

原因: Windows の現在のキャラクタ・セット指定では、マルチバイト文字列を UNICODE 文字列に変換できません。

処置: キャラクタ・セットの定義を修正するか、不正な文字を削除してください。

POL-8080 トリガー名はすでに存在しています

原因:

処置:

POL-8081 作成されたプロシージャは、戻り値を持つ Java メソッドとして登録されました

原因:

処置:

POL-8082 作成されたファンクションは、void を返す Java メソッドとして登録されました

原因:

処置:

POL-8083 この表にアタッチされた Java クラスはありません

原因:

処置:

1.10 MS 9000 ~ 9039 Msync のエラー・メッセージ

MS-9000 内部エラーが発生しました。

原因: 内部エラーです。

処置: システム管理者に連絡してください。

MS-9001 これ以上メモリーを割り当てられません。

原因: このプロセスにメモリーを割り当てられません。

処置: 他のアプリケーションをクローズして使用可能なシステム・メモリーを増やしてください。また、物理メモリーまたは仮想メモリー・サイズを増やしてください。

MS-9002 General memory error

原因: メモリーが壊れているか、またはメモリー不足です。

処置: 使用可能なメモリーを増やして、Msync を再起動してください。

MS-9003 Memory resize error

原因: メモリー不足です。

処置: メモリーを増やしてください。

MS-9004 Cannot create Palm Database new record (Palm Only)

原因: PDB ファイルに 65535 以上のレコードが含まれているか、または永続メモリーが不足しています。

処置: 容量を増やすには、使用されていない PDB ファイルを削除してください。

MS-9005 Cannot create new Palm Database file (Palm Only)

原因: Palm Database (PDB) ファイルがすでに存在するか、またはメモリー不足です。

処置: 容量を増やすには、PDB ファイル (ある場合) を削除するか、または他の PDB ファイルを削除してください。

MS-9006 ファイルまたは PDB に書き込めません。(Palm のみ)

原因: メモリー不足です。

処置: 容量を増やすには、PDB ファイルを削除してください。

MS-9007 新規の okapi クラスを作成できません。

原因: クラスが存在するか、メモリー不足か、またはデータベース内のオブジェクトが多すぎます。

処置: データベースが **ocapi.dll** を使用して作成されていて、大きすぎないことを確認してください。

MS-9008 新規の okapi グループを作成できません。

原因: グループが存在するか、メモリー不足か、またはデータベース内のオブジェクトが多すぎます。

処置: データベースが、ファイル・システムが満杯ではない Mobile Sync と同期して作成されていることを確認してください。

MS-9009 新規の okapi オブジェクトを作成できません。(Palm のみ)

原因: メモリー不足か、またはデータベース内のオブジェクトが多すぎます。

処置: 容量を増やすには、他の使用されていない PDB を削除してください。

MS-9010 新規の okapi オブジェクト属性を設定できません。

原因: データベースが壊れているか、またはメモリー不足です。

処置: データベースを削除して、再同期化してください。

MS-9011 General error on application deployment

原因: アプリケーション・ファイルがローカルにすでに存在しているか、または大きすぎます。

処置: ディスク容量を増やすには、余分なファイルを削除してください。

MS-9012 Application deployment directory not found

原因: 接続先ディレクトリが見つかりません。

処置: アプリケーションにより再同期化が行われるディレクトリを作成してください。該当するプラットフォームの開発者ガイド (『Oracle9i Lite Windows 32 開発者ガイド』など) の「パッケージ・ウィザード」の章を参照してください。

MS-9013 General error on index creation

原因: 無効な索引が指定されました。

処置: CV\$ALL_PUBLICATION_INDEX システム・カタログ・ビューを使用して、サーバー側の索引定義をチェックしてください。該当するプラットフォームの開発者ガイド (『Oracle9i Lite Windows 32 開発者ガイド』など) の「システム・カタログ・ビュー」の章を参照してください。

MS-9014 General error on accessing log file

原因: エラー・ログ・エントリを作成できません。

処置: 古いログ・エントリをページしてください。

MS-9015 General error on shared library open/close

原因: 共有ライブラリが存在しないか、または壊れています。

処置: 共有ライブラリを再インストールしてください。

MS-9016 Shared library file okapi.prc not found (Palm Only)

原因: 共有ライブラリが壊れています。

処置: okapi.prc 共有ライブラリを再インストールするか、または Static Consolidator を使用してください。

MS-9017 Shared library file okindex.prc not found (Palm Only)

原因: 廃止されました。

処置: システム管理者に連絡してください。

MS-9019 General compression error

原因: 圧縮エラーです。

処置: システム管理者に連絡してください。

MS-9021 Class name mismatch

原因: 廃止されました。

処置: システム管理者に連絡してください。

MS-9022 Server/Client format mismatch

原因: サーバーはこのクライアントをサポートしていません。

処置: バージョンが一致するように、サーバーまたはクライアントをアップグレードしてください。

MS-9023 General send error

原因: ソケット経由のデータの送信時にエラーが発生しました。

処置: ネットワーク接続をチェックして、再同期化してください。

MS-9024 General receive error

原因: ソケット経由のデータの送信時にエラーが発生しました。

処置: ネットワーク接続をチェックして、再同期化してください。

MS-9025 Server sends 'E' opcode

原因: サーバーがエラーをレポートしました。

処置: サーバー・ログをチェックして、サーバーを修正してください。

MS-9026 Server sends 'E' opcode

原因: ログインに失敗しました。

処置: ログイン名とパスワードをチェックして、再同期化してください。

MS-9027 consolidator クライアント・データベースを作成できません

原因: クライアント・データベースが存在するか、またはロックされています。

処置: `conscli.odb` が使用されていないことと、十分なディスク領域があることを確認してください。

MS-9028 General error on accessing compressed file

原因: 一時圧縮データをオープンできません。

処置: ディスク領域をチェックして、他のプロセスが同期中に一時ファイルをパージしていないことを確認してください。

MS-9029 Invalid Object

原因: 一時圧縮データをオープンできません。

処置: ディスク領域をチェックして、他のプロセスが同期中に一時ファイルをパージしていないことを確認してください。

MS-9030 Server and client versions do not match

原因: サーバーが不正な同期パケットをクライアントに送信しました。

処置: サーバーのバージョンをチェックするか、または Mobile サーバーから Mobile クライアントを再インストールしてください。

MS-9031 Cannot open file (Application Deployment)

原因: ディスク障害か、または他のシステムの問題です。

処置: ファイル・システムをチェックしてください。

1.11 MS 9100 ~ 9199 トランスポート・エラー

MS-9100 HTTP pipe general error

原因: HTTP 読取り / 書込みの問題です。

処置: ネットワーク接続とプロキシ・サーバーをチェックしてください。

MS-9101 HTTP はホストを見つける事ができませんでした

原因: DNS はホストを名前で見つけられませんでした。

処置: サーバー名、DNS サーバーおよびネットワーク接続をチェックしてください。

MS-9102 error from NetLibGetHostByName()

原因: gethostbyname が失敗しました。

処置: クライアント・マシンの DNS 設定をチェックしてください。

MS-9103 HTTP はホストを見つける事ができませんでした

原因: プロキシ・サーバーが見つかりません。

処置: プロキシ・サーバーのホスト名と DNS サーバーをチェックしてください。

MS-9104 HTTP はホストを見つける事ができませんでした

原因: サーバーが停止しています。

処置: Mobile サーバーまたはプロキシを再起動してください。

MS-9105 HTTP cannot find proxy error

原因: プロキシ・サーバーが停止しています。

処置: プロキシ・サーバーを再起動するか、またはプロキシ・ホスト名を確認してください。

MS-9106 HTTP send header error

原因: ソケット書込みエラーです。

処置: ネットワーク接続をチェックしてください。

MS-9107 HTTP 転送エラーが発生しました

原因: ソケットに POST データを書き込めません。

処置: ネットワーク接続、プロキシ・サーバーおよびサーバー・タイムアウトをチェックしてください。

MS-9108 HTTP receive header error

原因: HTTP ヘッダー全体を読み込めません。

処置: Mobile サーバーとプロキシ・サーバーをチェックしてください。

MS-9109 HTTP 受信エラーが発生しました

原因: ソケットからのデータの読み込み時にエラーが発生しました。

処置: Mobile サーバーとネットワーク接続をチェックしてください。

MS-9110 転送中に HTTP パイプ解析が発生しました

原因: 同期プロセス中にソケットが削除されました。

処置: ネットワーク接続をチェックしてください。

MS-9111 HTTP ネットワーク・ライブラリが見つかりません

原因: ネットワーク・ライブラリをロードできません。

処置: ネットワーク・スタックをチェックして、スタックをロードするのに十分なメモリがあるかどうか確認してください。

1.12 MS 9200 ~ 9299 Secure Socket Layer (SSL) のエラー

MS-9200 Some internal SSL error

原因: システム SSL エラーです。

処置: オペレーティング・システムをチェックして、SSL コンポーネントを再インストールしてください。

MS-9201 Could not load the Security Library

原因: SSL ライブラリをロードできません。

処置: 必要なオペレーティング・システム・パッチまたはライブラリをインストールしてください。

MS-9202 Error disconnecting from the SSL server

原因: サーバーから正しく切断できません。

処置: ネットワーク接続とプロキシ・サーバー設定をチェックしてください。

MS-9203 Error creating the SSL credential

原因: SSL 接続を確立できません。

処置: Mobile サーバー構成ファイルの SSL 設定をチェックしてください。

MS-9204 Error during SSL handshake with the server

原因: SSL ハンドシェイク・ステージで失敗しました。

処置: サポートされているクライアント OS とサーバーの SSL のバージョンをチェックしてください。

MS-9205 Error querying the remote certificate

原因: リモート証明書をロードできません。

処置: サーバー・キー・マネージャをチェックしてください。

MS-9206 Error querying the SSL security package

原因: SSL ライブラリをロードできません。

処置: オペレーティング・システムの SSL サポート・ライブラリを再インストールしてください。

MS-9207 Error in decrpyting SSL message

原因: オペレーティング・システム・ライブラリのエラーか、または転送中に壊れました。

処置: 接続、またはクライアントとサーバーの SSL サポートをチェックしてください。

MS-9208 Error in encrpyting SSL message

原因: オペレーティング・システム・ライブラリのエラーか、または転送中に壊れました。

処置: 接続、またはクライアントとサーバーの SSL サポートをチェックしてください。

1.13 WTG 2000 ~ 2100 Oracle Web-to-Go oracle.lite.web.html メッセージ

WTG-02000: {メソッド名} を実行できません

原因: 指定されたメソッドの実行に失敗しました。通常、このメッセージには、問題の原因を説明する詳しいメッセージが付随します。

処置: 詳細メッセージを調べて、問題の原因を見つけてください。

WTG-02001: {クラス} の中にメソッド {メソッド名} が見つかりません

原因: ベース・クラス `TemplateParser` から継承されているはずのクラスに、指定されたメソッドが含まれていません。

処置: メソッド `getWRB_TAGS()` により返されたすべてのメソッドがクラス内に含まれていることを確認してください。また、メソッドのシグネチャが正しいことも確認してください。

WTG-02002: {アクション} の実行中にエラーが発生しました: {メソッド}

原因: 指定されたメソッドの実行に失敗しました。このメッセージには、問題の原因を説明する詳しいメッセージが付随します。

処置: 詳細メッセージを調べて、問題の原因を見つけてください。

WTG-02003: 列番号が正しくありません: {列番号}

原因: 指定された番号の列が表に含まれていません。

処置: 正しい列番号を見つけてください。列番号は 1 から開始されます。

WTG-02004: JDBC Connection を取得できません

原因: データベースへの JDBC 接続が作成できませんでした。

処置: システム管理者に連絡してください。

WTG-02005: JDBC Statement を作成できません

原因: SQL 文の実行に使用される JDBC 文が作成できませんでした。

処置: システム管理者に連絡してください。

WTG-02006: 列名が正しくありません: {列名}

原因: 指定された名前の列が表に含まれていません。

処置: 列の正しい名前を見つけてください。

WTG-02007: HTML フォームの中に、パラメータ {パラメータ名} が見つかりません

原因: `ProcessForm` サブレットでは、指定された HTML パラメータが HTML フォーム内に必要です。

処置: パラメータをフォームに追加し、再度フォームを送信してください。

WTG-02008: HTML テンプレートの解析中にエラーが発生しました

原因: HTML テンプレートを解析できませんでした。通常、このメッセージには、問題の原因を説明する詳しいメッセージが付随します。

処置: 詳細メッセージを調べて、問題の原因を判断してください。

WTG-02009: 値リストに 3 列以上の値が返されました

原因: 値リストを生成する SQL 文が返した列数が多すぎます。サポートされているのは、1 列または 2 列のみです。

処置: 正しい列数を返すように SQL 文を変更してください。

WTG-02010: 値リストを構成する選択フィールドを作成できません

原因: 値リストを構成する選択フィールドを作成できませんでした。SQL 文のエラーが原因と思われます。

処置: 値リストの移入に使用される SQL 文を修正してください。

WTG-02011: ドキュメント・タイプが正しくありません

原因: テキスト文字列で置き換えようとしている WRB_INC タグのある WebToGoHtmlPage オブジェクトの型が正しくありません。

処置: 置換えが可能な WRB_INC タグは、WebToGoFile オブジェクトに基づいて構成された WebToGoHtmlPage オブジェクト内の WRB_INC タグのみです。

WTG-02012: JDBC ドライバのエラーが発生しました

原因: JDBC エラーが発生しました。通常、このメッセージには、問題の原因を説明する詳しいメッセージが付随します。

処置: 詳細メッセージを調べて、問題の原因を判断してください。

1.14 WTG 3000 ~ 3099 Oracle Web-to-Go コントロール・センター・メッセージ

WTG-03000: アクセスが拒否されました - 権限がありません

原因: ユーザーは管理者によりアクセス権は付与されていますが、ユーザーの接続権限が管理者権限にまで上げられていません。

処置: コントロール・センターを使用してユーザーの権限を編集します。該当ユーザーの「権限」を Administrator に変更してください。

WTG-03001: { 属性 } の検索中にエラーが発生しました { オブジェクト }

原因: 指定されたシステム・オブジェクトで指定された情報を検索中に、サーバー側エラーが発生しました。

処置: 詳細は、サーバー側でデバッグを有効にしてください。

WTG-03002: { オブジェクト } の検索中にエラーが発生しました

原因: 指定された情報を検索中に、サーバー側エラーが発生しました。

処置: 詳細は、サーバー側でデバッグを有効にしてください。

WTG-03003: システムからコントロール・センターを削除できません

原因: Administrator は Web-to-Go システムからコントロール・センター・アプリケーションを削除できません。

処置: Web-to-Go からコントロール・センターを削除しようとししないでください。

WTG-03004: { オブジェクト } を作成できません。このユーザーまたはグループは既に存在しています。

原因: 管理者が作成しようとしたオブジェクトは、システムにすでに存在するオブジェクトを上書きします。

処置: 既存のオブジェクトを編集するか、一意な名前を持つ新しいオブジェクトを作成してください。

WTG-03005: 検索基準に一致するエントリが見つかりません

原因: コントロール・センターが、ユーザーの間合せに一致するリポジトリ・エントリを見つけられません。

処置: もっと一般的な検索条件を使用するか、条件を使用せずに指定された型のすべてのリポジトリ・オブジェクトを返してください。

WTG-03006: オフライン・モードでは、コントロール・センターを使用できません。

原因: 管理者がオフライン・モードでコントロール・センターを使用しようとしてしました。

処置: コントロール・センターはオンライン時にのみ使用してください。

WTG-03007: システムから、Administrator を削除できません

原因: 管理者をシステムから削除できません。

処置: 指定されたユーザーをシステムから削除しようとししないでください。

WTG-03008: すでに存在するユーザーを作成できません!

原因: 作成しようとしたユーザーはすでにシステム内に存在します。

処置: 既存のユーザーを変更してください。

WTG-03009: ファイルのフォーマットが正しくありません!

原因: jar ファイルが正しくありません。

処置: パッケージ・ウィザードからの jar ファイルを使用する必要があります。

WTG-03010: そのアプリケーションは既に存在しています。

原因: アプリケーションはすでにシステム内に存在しています。

処置: 前のアプリケーションを削除してから新しいアプリケーションを作成してください。

WTG-03011: 指定された日数以上オフラインのままのサイトは見つかりません。

原因: コントロール・センターが、ユーザーの間合せに一致するリポジトリ・エントリを見つけられません。

処置: 一般的な条件を追加して検索してください。また、指定された型のリポジトリ・オブジェクトをすべて検索する場合は、条件を使用しないでください。

WTG-03012: 「ユーザー・プロパティ」 ページ内ではパスワードを変更できません。ワークスペースで「構成」タブを選択し、「パスワードの変更」リンクをクリックします。

原因: 「ユーザー・プロパティ」 ページ内ではパスワードを変更できません。

処置: ワークスペースで「構成」タブを選択し、「パスワードの変更」リンクをクリックします。

WTG-03013: システムから自身のユーザーを削除できません。

原因: システムから自身のユーザーを削除できません。

処置: 指定されたユーザーをシステムから削除しようとししないでください。

1.15 WTG 3100 ~ 3199 oracle.lite.web.resource パッケージからのエラー

WTG-03100: { リソース } が、存在しません

原因: 指定されたリソースがシステム内にありません。

処置: 必要なリソースを作成し、スクリプトを再実行してください。

WTG-03101: パラメータ { パラメータ名 } が、登録されていません

原因: スナップショット・パラメータがサーバーに登録されていません。

処置: パラメータをサーバーに登録してください。

WTG-03102: { フィールド } の値を NULL にできません

原因: ユーザー名またはパスワードには NULL は指定できません。

処置: ユーザー名とパスワードに値が含まれることを確認してください。

WTG-03103: プラットフォーム値が無効です。

原因: 渡されたプラットフォーム値が無効です。

処置: 有効なプラットフォーム値を渡してください。

1.16 WTG 4000 ~ 4100 Oracle Web-to-Go アプレット / サブレット・メッセージ

WTG-04000: Web-to-go Server への接続に失敗しました

原因: アプレットが Web-to-Go サーバーへ接続できませんでした。

処置: システム管理者に連絡してください。

WTG-04001: NULL オブジェクトが返されました

原因: Web-to-Go アプリケーション・サブレットが NULL オブジェクトを返しました。

処置: サブレットを調べて、直列可能オブジェクトを返してください。

WTG-04002: Web-To-Go のアプレットを実行するには、ファイル webtogo.ora 内のパラメータ APPLET_SUPPORT_ENABLE=YES が必要です

原因: webtogo.ora から APPLET_SUPPORT_ENABLE=YES が見つかりません。

処置: webtogo.ora に APPLET_SUPPORT_ENABLE=YES を追加して、Web-To-Go の Mobile クライアントを再起動してください。

1.17 WTG 10000 ~ 10200 Oracle Web-to-Go 一般メッセージ

WTG-10001: クローズされたストリームに対し、書込みを行うことはできません

原因: ユーザーが、すでにクローズされているストリームにデータの「書込み」をしようとした。

処置: ストリームを再びオープンしてから、データを書き込んでください。

WTG-10002: クローズされたストリームから読み込みを行うことはできません

原因: ユーザーが、すでにクローズされているストリームからデータの「読み込み」をしようとした。

処置: ストリームを再びオープンしてから、データを読み込んでください。

WTG-10003: 入力バッファが、NULL または空です

原因: ストリームの「書込み」メソッドに対して、無効なパラメータが渡されました。

処置: 入力バッファの妥当性を検証してください。

WTG-10004: バッファ・サイズが不足しているためデータを格納できません

原因: 入力バッファが、ユーザーが読み込もうとしているデータを保持するには小さすぎます。

処置: バッファ・サイズを増やしてから、データを再度読み込んでください。

WTG-10005: ファイル名が、NULL または空です

原因: ユーザーが無効なファイル名のストリームをオープンしようとした。

処置: 正しいファイル名を指定してから、ストリームをオープンしてください。

WTG-10006: {ファイル名}({エラー・コード}) をオープンできません

原因: 指定されたファイルが見つかりませんでした。

処置: ファイルがファイル・システム内にあることを確認してください。

WTG-10007: ディレクトリ {ディレクトリ名} を作成できません

原因: ディレクトリはすでにシステム内に存在する可能性があります。

処置: ディレクトリの存在を確認してください。

WTG-10008: ディレクトリ {ディレクトリ名} を削除できません

原因: ディレクトリが空でない可能性があります。

処置: ディレクトリを削除する前に、ディレクトリ内のファイルをすべて削除してください。

WTG-10009: ファイルの書き込みエラーが発生しました:({エラー・コード})

原因: ファイルへのデータの書き込みに失敗しました。

処置: 入力バッファの妥当性を検証してください。

WTG-10010: ファイルを削除できません:({エラー・コード})

原因: ファイルを切り捨てられませんでした。

処置: 別のユーザーがこのファイルをオープンしている可能性があります。このファイルに対してオープンされている参照をすべてクローズしてください。

WTG-10011: ストリーム・ハンドルが正しくありません

原因: 操作に使用されたストリーム・ハンドルが無効です。

処置: ファイル (ストリーム) を再度オープンしてください。

WTG-10012: ディレクトリ {ディレクトリ名} は、すでに存在しています

原因: すでに存在しているディレクトリを作成しようとした。

処置: 新規ディレクトリに他の名前を選択してください。

WTG-10013: ディレクトリ {ディレクトリ名} は、空ではありません

原因: 空ではない (他のディレクトリまたはファイル (あるいはその両方) を含む) ディレクトリを削除しようとした。

処置: ディレクトリ自体を削除する前に、ディレクトリ内のファイルをすべて削除してください。

WTG-10014: アクセス違反が発生しました: ルート・ディレクトリを削除できません

原因: ルート・ディレクトリを削除しようとしてしました。

処置: これは許されていません。

WTG-10015: ディレクトリ {ディレクトリ名} が、見つかりません

原因: 指定されたディレクトリが見つかりませんでした。

処置: ディレクトリの存在を確認してください。

WTG-10016: ファイル {ファイル名} が、見つかりません

原因: ファイルがない可能性があります。

処置: ファイルの存在を確認してください。

WTG-10017: ファイルシステムのマウントができません: {サービス名}

原因: 指定された TNS 名 (Oracle Lite DSN) が存在しない可能性があります。

処置: TNS 名 (DSN) を確認してやり直してください。

WTG-10018: コマンドの構文が正しくありません

原因: コマンドに指定されている引数の数が正しくありません。

処置: 正しい構文でコマンドを再実行してください。

WTG-10019: コマンドが違います

原因: このツールではサポートされていないコマンドが指定されました

処置: コマンドの構文をチェックしてください。

WTG-10020: スクリプト・ファイルが正常に処理されました

原因: スクリプト・ファイルの実行が、エラーなしで完了しました。

処置: アクションは必要ありません。このメッセージは単なる参考用です。

WTG-10021: ファイル {ファイル名} を削除できません

原因: ユーザーがオープン中のファイルを削除しようとしてしました。

処置: ファイルをクローズしてから削除してください。

WTG-10022: ファイルシステムが初期化されていません

原因: ユーザーがマウントされていないファイル・システムからファイルをオープンしようとしてしました。

処置: ファイル・システムをマウントしてからやり直してください。

WTG-10023: アプリケーション・リポジトリに接続できません

原因: Web-to-Go サーバーがリポジトリに接続できません。

処置: リポジトリ・ユーザーとして有効なユーザー名とパスワードを指定してください。

WTG-10024: スクリプト・ファイルを読み込むことができません

原因: スクリプト・ファイルのパスが無効です。

処置: スクリプト・ファイルのパスをチェックし、ファイルに対して読み込みアクセス権があることを確認してください。

WTG-10025: 構文エラーが発生しました: 行 { 行番号 }

原因: スクリプト・ファイルの指定された行にエラーがあります。

処置: スクリプト・ファイルのエラーを修正し、コマンドを再実行してください。

WTG-10026: 構文エラーが発生しました。行 { 行番号 }、{ キーワード } を指定する必要があります。

原因: スクリプト・ファイル内の指定された行に、所定のキーワード以外のキーワードが見つかりました。

処置: スクリプト・ファイルのエラーを修正し、コマンドを再実行してください。

WTG-10101: Web-to-go のセキュリティ違反が発生しました

原因: ユーザーが保護されている URL にアクセスしようとしてしました。

処置: システム管理者に連絡し、適切なアクセス権を付与してもらってください。

WTG-10102: { ユーザー名 } のログイン・セッションが時間切れとなりました

原因: ブラウザのアイドル時間が LOGON EXPIRATION TIME を超過しました。

処置: 再度ログインしてください。

WTG-10104: 指定した URL にアクセスする権限がありません

原因: ユーザーが保護されている URL にアクセスしようとしてしました。

処置: システム管理者に連絡し、適切なアクセス権を取得してください。

WTG-10106: Web-to-go にログインできません

原因: ログイン情報が正しくない可能性があります。

処置: 正しい情報を指定してください。

WTG-10107: ログイン情報 { ユーザー名 } が正しくありません

原因: ログイン情報が正しくない可能性があります。

処置: 正しい情報を指定してください。

WTG-10108: ユーザー名とパスワードを確認して、もう一度やり直してください

原因: ログイン情報が正しくない可能性があります。

処置: 正しい情報を指定してください。

WTG-10109: 指定した URL が見つかりません

原因: ユーザーが指定した URL が見つかりませんでした。

処置: URL をチェックしてやり直してください。

WTG-10110: 指定した URL が見つかりません {URL}

原因: ユーザーが指定した URL が見つかりませんでした。

処置: URL をチェックしてやり直してください。

WTG-10111: アプリケーション・ベンダーに連絡してください

原因: アプリケーションでエラーが発生しました。

処置: アプリケーション・ベンダーに連絡してください。

WTG-10113: Web-to-go Server でエラーが発生しました

原因: ユーザーのアクションによりエラーが発生しました。

処置: ブラウザに表示されている詳細情報を読んでください。

WTG-10116: Web-to-go Server がダウンしています

原因: Web-to-Go サーバーがダウンしている可能性があります。

処置: システム管理者に連絡してください。

WTG-10117: システム管理者に連絡してください

原因: システムでエラーが発生しました。

処置: システム管理者に連絡してください。

WTG-10118: Web-to-go Server は起動していません

原因: Web-to-Go サーバーがダウンしている可能性があります。

処置: システム管理者に連絡してください。

WTG-10119: オフライン・モードでは、構成を変更できません

原因: 構成設定を変更できるのは、オンライン・モードのときのみです。

処置: オンライン・モードに切り替えてからやり直してください。

WTG-10121: 正しい情報を入力してください

原因: 指定されたログイン情報が正しくありません。

処置: 有効な情報を指定してください。

WTG-10122: アプリケーションは、一時停止しています。

原因: アプリケーションは、管理者により一時停止されています。

処置: 後でやり直してください。アプリケーションが使用できない場合は、システム管理者に連絡してください。

WTG-10123: アプリケーション {0} は、管理者によって一時停止しています。

原因: アプリケーションは、管理者により一時停止されています。

処置: 後でやり直してください。アプリケーションが使用できない場合は、システム管理者に連絡してください。

WTG-10124: システムにログインする権限がありません

原因: ユーザーにはシステムにログインする CONNECT 権限がありません。

処置: システム管理者に連絡してこの権限を要求してください。

WTG-10125: パスワードを変更できません

原因: パスワードを変更できません。カレント・パスワードが正しくないか、新規パスワードが一致しません。

処置: 正しいカレント・パスワードを指定したかどうか確認してください。新規パスワードを2回入力した場合は、一致しているか確認してください。操作をやり直してください。

WTG-10126: 設定を保存できません

原因: 新しいユーザー作業環境を保存できません。無効な入力または重大なシステム・エラーが原因です。

処置: 入力した値を調べて、作業環境に有効な値を指定したことを確認します。値がすべて正しくてもこのメッセージを受け取る場合は、システム管理者に連絡してください。システム管理者は、Web-to-Go ログ・メッセージをオンにし、この問題の原因についてより詳しい情報を取得する必要があります。

WTG-10127: パスワードを変更できません: 新しいパスワードは、現在のパスワードと同じです

原因: パスワードを変更できません。新しいパスワードは古いパスワードと同じにはできません。

処置: カレント・パスワードとは異なるパスワードを選択してから、操作をやり直してください。

WTG-10128: 管理者は Web-to-Go の Mobile クライアントにログオンできません。

原因: 管理者が直接に接続できるのは、Mobile サーバーのみです。

処置: 管理者としてサーバーに直接接続するか、別のユーザーとしてクライアントに接続してください。

WTG-10130: Mobile サーバーに直接接続してください。

原因: 管理者が直接に接続できるのは、Mobile サーバーのみです。

処置: 管理者としてサーバーに直接接続するか、別のユーザーとしてクライアントに接続してください。

WTG-10131: バージョンは使用不可です。

原因: Web-to-Go のバージョンが使用できませんでした。

処置: システム管理者に連絡してください。

WTG-10132: {0} から管理者権限のアカウントでログインできません。

原因: Web-to-Go のバージョンが使用できませんでした。

処置: システム管理者に連絡してください。

1.18 WTG 20500 ~ 20600 Oracle Web-to-Go パッケージ・ウィザード・メッセージ

WTG-20501: ファイル{ファイル名}行({行番号},{列番号}){追加メッセージ情報}

原因: XML ファイルの書式が正しくありません。

処置: テキスト・エディタまたは XML エディタを使用して XML ファイルを調べてください。

WTG-20502: パッケージ・ウィザードが失敗しました。{追加メッセージ情報}

原因: ネットワーク上の理由または権限上の理由から、パブリッシュに失敗しました。

処置: 詳細は、Web-to-Go ルート・ディレクトリにある **wtgpack.log** ファイルを調べてください。

WTG-20503: パッケージ・ウィザードが失敗しました。

原因: ネットワーク上の理由または権限上の理由から、あるいは無効な XML ファイルのために、パブリッシュに失敗しました。

処置: 詳細は、Web-to-Go ルート・ディレクトリにある **wtgpack.log** ファイルを調べてください。

WTG-20504: パブリッシュに失敗しました。詳細は、wtgpack.log ファイルを参照してください。

原因: ネットワーク上の理由または権限上の理由から、あるいは無効な XML ファイルのために、パブリッシュに失敗しました。

処置: 詳細は、Web-to-Go の bin ディレクトリにある **wtgpack.log** ファイルを調べてください。

WTG-20505: システム・パス内に、wtgos.dll を見つけることができません。ヘルプを表示することができません。

原因: HTML 状況依存ヘルプのドキュメントを表示するには、ファイル **wtgos.dll** が必要です。

処置: Web-to-Go の bin ディレクトリに **wtgos.dll** があることを確認してください。

WTG-20506: アプリケーションは、すでに存在しています。新しい設定で上書きするには、-o オプションを使用してください。

原因: アプリケーションの定義がすでにサーバー上に存在しています。

処置: サーバー上の既存の定義を優先するには、**-o** を使用してください。

WTG-20507: アプリケーション {0} は、存在していません。アプリケーション名を確認してください。

原因: ユーザーが指定したアプリケーション名はワークスペースの xml ファイル内に存在しません。

処置: アプリケーション名が正しいことを確認してください。アプリケーションは大 / 小文字を区別します。

WTG-20508: JAR ファイルが無効です。web.xml ファイルを含んでいません。

原因: パッケージされた Web-to-Go アプリケーション JAR ファイルには、アプリケーション定義を含む **web.xml** が含まれています。

処置: JAR ファイルに **web.xml** ファイルが含まれていることを確認してください。

WTG-20509: NULL ポインタです。Mobile サーバーが適切に起動されたことを確認してください。

原因: Mobile サーバーは admin ポートでのみ起動しています。管理者はまだログインしていません。

処置: サーバーが、データベース・ユーザーのユーザー名とパスワードで正常に稼働していることを確認してください。

WTG-20510: ファイル拡張子は削除できません。削除するとファイル名が重複します。手動でファイル名を変更してください。ファイルは {ファイル名} です。

原因: Palm ファイルの場合、Palm では拡張子がサポートされていないため、ファイル拡張子は削除されます。

処置: ファイル拡張子が削除されてもファイル名が一意となるように、ファイル名を変更してください。

1.19 WTG 21000 ~ 22000 oracle.lite.web.tools 内の Tools クラスにより報告されるエラー

WTG-21000: ファイル名またはアプリケーション ID は、NULL にできません。

原因: ファイル名は NULL にできません。

処置: 渡されたファイルの名前を調べてください。

WTG-21001: ファイル {0} が見つかりません。

原因: 指定されたファイルがシステム内にありません。

処置: システム管理者に連絡してください。

WTG-21002: アプリケーション ID は、NULL にできません。

原因: アプリケーション ID は、NULL にできません。

処置: 渡されたアプリケーション ID を調べてください。

WTG-21003: ジョブ・クラスが見つかりません。

原因: ジョブ・クラスが見つかりません。

処置: システム管理者に連絡してください。

WTG-21004: シーケンスの取得中にエラーが発生しました。

原因: シーケンスの取得中にエラーが発生しました。

処置: システム管理者に連絡してください。

WTG-21005: データが正常に保存されましたが、データをリフレッシュできません。

原因: データが正常に保存されましたが、データをリフレッシュできません。

処置: システム管理者に連絡してください。

WTG-21006: データの取得中にエラーが発生しました。

原因: データの取得中にエラーが発生しました。

処置: システム管理者に連絡してください。

WTG-21007: このアプリケーションはオンライン・モードでは使用できません。

原因: 管理者がオンライン・モードでこのアプリケーションを使用しようとしました。

処置: このアプリケーションはオフライン・モードのみで使用してください。

WTG-21008: ジョブは将来の時間に対してのみスケジュールできます。

原因: ジョブは将来の時間に対してのみスケジュールできます。

処置: 元に戻って日付と時間を変更してください。

WTG-21009: ファイルの保存中にエラーが発生しました。

原因: ファイルの保存中にエラーが発生しました。

処置: システム管理者に連絡してください。

WTG-21500: ファイル{ファイル名}は有効な SSL 証明書を含んでいません。

原因: Mobile サーバーとの SSL 通信に有効な SSL 証明書を含んだファイルが存在しません。

処置: システム管理者に連絡して、有効な SSL 証明書が Mobile サーバーのリポジトリにアップロードされていることを確認してください。

WTG-21501: この機能は SSL モードのみ使用可能です。

原因: この機能は、サーバーが SSL モードで稼働している場合にのみ使用可能です。

処置: システム管理者に連絡してください。

WTG-22000: このワークステーションは{ユーザー}およびブランチオフィス・モードのみ 1 ユーザーが使用できる Web-to-Go の Mobile クライアントとして使用中です。

原因: ブランチオフィス・モードでは、1 ユーザーのみがブランチオフィス・サーバーを所有できます。

処置: 元に戻って別のユーザーとしてログインしてください。

WTG-22001: ブランチオフィスのサービスが開始されていません。ブランチオフィス・コントロール・センターでサービスを開始してください。

原因: ブランチオフィスのサービスが開始されていないため、Web-To-Go の Mobile クライアントを同期化できません。

処置: ブランチオフィスのサービスを開始してください。

1.20 Oracle Lite メッセージのヘルプ

各メッセージ・コードは製品 ID-*nnnnn* という形式になっています。*nnnnn* には整数がはいります。ここではオペレーティング・システムや他の Oracle 製品固有のメッセージはリストしません。他の Oracle ドキュメントへの参照とあわせてメッセージ・コードをリストします。

各説明には、次のようにメッセージ番号とテキストが含まれています。

エラー・メッセージ・テキスト

原因: 考えられるエラーの原因の説明。

処置: エラーを解決するために考えられるアクションの説明。

1.20.1 異常な状態

場合によっては、「異常な状態」と呼ばれるエラーが発生することがあります。これらは、はっきりした原因が分からないエラーです。次のセクションで、異常な状態の考えられる原因と解決するためのアクションを説明します。

1.20.1.1 原因

異常な状態は次の原因のいずれかによって発生する可能性があります。

- 無効なユーザー・アクションが行われた。
- コンポーネントのバグにより、要求されたタスクを完了できなかった。

1.20.1.2 アクション

まず DBA またはシステム管理者（あるいはその両方）に問い合せて、メッセージが Oracle Lite 以外のものによって発生したものか調べてください。メッセージがユーザーのエラーやシステムの問題ではないことが判明した場合は、次の手順に従ってください。

- メッセージ番号とそのテキストを書きとめる。
- メッセージが表示されるまでの状況を書きとめる。実行したアクション、(ある場合は) 関係するオブジェクト、およびメッセージの前にキーを押した正確な順序を思い出してください。
- [オラクル社カスタマ・サポート・センター](#)にご連絡ください。

1.20.2 Java アクセス・クラスの例外について

Java アクセス・クラスのエラーは Java の例外処理機構によって生成されます。エラーは次のような名前と一緒に表示されます。

```
oracle.pol.jac.POLGroupNotFoundException
```

これらの Java 例外に関連するエラー・コードはありません。内部エラー・コードが Java 例外を起こした場合は、一般的な `oracle.pol.jac.POLException` が表示され、例外を起こした内部エラー・コードがレポートされます。

1.20.3 オラクル社カスタマ・サポート・センター

エラーの中には（たとえば内部エラーなど）、オラクル社カスタマ・サポート・センターにエラーをレポートする必要があるものがあります。カスタマ・サポート・センターへ連絡するときは、次の情報を用意してください。

- お客様のお名前、会社名、オラクル・サポート ID 番号。
- ハードウェア、オペレーティング・システム、および Oracle Lite が実行されているオペレーティング・システムのリリース番号。
- エラー発生時に使用していた Oracle Lite の完全なバージョン・ナンバー。ある場合は、改訂番号とポート・リリース番号も含まれます。
- エラーが発生していたときに使用していた他の製品すべてとそのバージョン番号。
- 1 つまたは複数のエラー・コードやメッセージが表示された場合は、正確なコード番号とメッセージ・テキスト（表示順）。
- 異常な状態を含む、問題の説明。
- 問題の重大度。次のコードを使用します。
 - 1 = プログラムが使用できない。本番システムの運用に対して重大な影響があります。
 - 2 = プログラムが使用できない。運用が非常に制限されます。
 - 3 = プログラムは使用できるが機能が制限される。運用全体に対してはそれほど重大ではありません。
 - 4 = 問題は顧客が回避。運用に影響があったとしても最小限です。